sakana.ai

作成: 2026-10-29

Sakana AI Intelligence Report

# 米中間選挙のAI分析

テキサス州上院選 — X (旧Twitter) の候補者・政党発信と71万件の反応を読む

本レポートは X (旧Twitter) の公開投稿データと公開情報 (OSINT) に基づく分析である。

# 米中間選挙のAI分析

テキサス州上院選 — X (旧Twitter) の候補者・政党発信と71万件の反応を読む

2026年11月3日、米国で「中間選挙」が行われる。中間選挙は大統領選挙のちょうど中間の年に実施される全国規模の選挙で、連邦下院の全435議席と、連邦上院100議席のうち約3分の1が改選される。大統領自身は選ばれないが、議会の多数派がどちらの党になるかで政権運営は一変するため、現政権に対する国民の「中間評価」として世界的に注目される。なかでも上院は、政府高官の人事や条約に同意を与えるという上院だけの権限を持ち、1州につき2議席という構成のため一つの議席の重みが大きい。改選議席の大半は共和・民主どちらが勝つかほぼ固まっており、全体の行方は少数の「激戦州」の結果に委ねられる。

本レポートが取り上げるテキサス州は、本来その「激戦州」に入るはずのない州だった。テキサスでは約30年にわたり州全体を対象とする選挙(上院議員・知事など)で共和党が勝ち続けており、全米有数の保守の牙城とされてきた。今回改選されるのは現職ジョン・コーニン上院議員の議席である。米国の上院選では、まず各党の候補者を選ぶ予備選があり、過半数に届かなければ上位2名の決選投票で指名を決し、その勝者どうしが11月の本選を戦う。コーニンは共和党の指名を争ったが、5月26日の決選投票でテキサス州司法長官の Ken Paxton (ケン・パクストン、共和党) に敗れた。

パクストンは2015年の証券詐欺起訴以来、司法問題を抱えながら2018年・2022年の州全体選挙に勝ち、2023年には州下院による弾劾訴追 (州上院で無罪) も経てきた政治家である。本選でパクストンと対決するのは州議会議員の James Talarico (ジェームズ・タラリコ、民主党) で、そのタラリコが世論調査で急伸している。

選挙予測の定番とされる Cook Political Report は、「共和党やや優位 (Lean Republican)」としていた評価を8月20日に「互角 (Toss Up)」へ変更し、Sabato's Crystal Ball も 8月26日に追随した。報道各社の世論調査平均でも9月中旬以降はタラリコが 2〜3ポイント上回って推移している。興味深いことに、個々の世論調査には年明けの時点で両者を同点とする結果もあったが、総合的な選挙予測の評価は夏まで「共和党優位」のまま動かなかった。保守の牙城で何が起きているのか。

この問いに、私たちは世論調査とは別の情報源で迫る。両候補と両州政党が X (旧Twitter) に投稿したすべての発信と、それらの投稿に寄せられた返信・引用という形の膨大な「反応」である。世論調査は数百〜数千人に「誰に投票するか」を尋ねた結果の集計であり、情勢のスナップショットとしては優れているが、「なぜ支持が動いたのか」「どんな言葉がそれを動かしたのか」までは分からない。一方、SNS上の反応は、有権者世論の縮図ではないものの、人々が候補者に向けて実際に発した言葉そのものが、日付付きで大量に残っている。

人間が読み切れる規模ではないこれらの反応を、本分析では独自のAI技術による3つの手法で読み解いた。一つは投稿の中で繰り返し語られる「物語」を自動抽出する中身の分析 (手法①)、もう一つは約55万件の反応を「支持・中立・批判」に仕分けして比率の変化を測る量の分析 (手法②) である。さらにその分析結果を Sakana AI が開発した深層リサーチAIで検証した (手法③)。スラングや皮肉を含む生身の言葉を文脈ごと解釈できる大規模言語モデルに、Sakana AI 独自の緻密な検証の仕組みを組み合わせている。これにより、選挙予測の評価が変わる2ヶ月前に、SNS上で何が起きていたかを再構成でき、さらにその後の展開についても独自の分析を示すことができた。

## 要旨

本分析は、テキサス州上院選をめぐる3月から10月までの候補者・州政党のXでのすべての発信約2,000件と、約71万件の反応をAIで読み解いたものである。重要な発見を3つのポイントにまとめる。

第一のポイントは、反応から見た選挙戦の推移である。世論調査や選挙分析では早くから接戦となり、8月頃からほぼ互角かタラリコがわずかに優位で固まったように見える。ところがXの表面の数字は複雑な風景を見せていた。序盤、パクストンは反応量でタラリコの約1.4倍を集め、その半数は好意的だった。発信の総閲覧でも実はタラリコはパクストンに及ばず、タラリコへの反応はおよそ7割が否定的だった。

しかし反応の中身と推移を見ると、パクストンへの支持は5月26日の共和党決選投票を境に5割から2割弱へ急落し、批判が3割弱から6割へ急増した。候補者の確定で「党内の敵を倒す」という動員の物語が役割を失い、反応の焦点は支持者の結集から、性犯罪者への司法取引優遇などのスキャンダルへ移ったのである。一方タラリコへの批判はおよそ7割で推移し続けたが、その大半は「だからパクストンに投票を」というパクストン支持の裏返しで、新しい層へ広がっていない。つまり表面のパクストン優勢は有権者全体の意見傾向ではなく、パクストン支持者の動きが実勢以上に映り込んだものだった。本分析はこの転換を、6月のデータに特定した。

タラリコ優位の趨勢は続いているものの、パクストンの発信量とそれに呼応する反応の勢い、そしてタラリコへの批判も量としては増えていることを考え合わせると、選挙戦は終盤において、互いに強く批判し合う接戦の様相を呈している。

第二のポイントは、発信者 (候補者と州政党) が何に力を入れ、何が効いたかである。タラリコは発信量を倍増させ、軸としてきた経済 (生活費) の発信を保ちながら、汚職追及と対立候補攻撃へ重心を移した。意外にも、持ち味とされる聖書・信仰の投稿は発信の1割弱にとどまり、物語化もしていない。選挙戦終盤にはデータセンターも州民主党とともに争点化し、パクストンと共和党への批判を引き出した。

パクストンは積極的に語れる中身を欠き、司法長官としての実績の広報と、相手への攻撃・投票の呼びかけが中心だった。他方で文化的な発信は目立ち、キリスト教についてはむしろタラリコ以上に積極的なアピール材料とした。その中身はタラリコの信仰を偽物とする攻撃であり、州共和党もキリスト教の書き換え批判の物語で歩調を合わせた。また、パクストンがデータセンター規制に乗り出したことは評価されず、冷めた批判的反応が目立った。

第三のポイントは手法の含意である。発信と反応の質と量、その推移を緻密に観測することで、世論調査では見えない「なぜ動いたのか」「どのように動いたのか」を捉えられた。X上の転換の観測は、主要な評価機関がレース評価を「互角」へ改める8月下旬より約2ヶ月早く、さらにその後の展開 (終盤の資金による巻き返しと、その中身) も、独自の分析として示すことができた。

# 目次

1. 分析手法 — データと3つのAI分析

2. ナラティブ分析 — 発信、反応、そして総合

3. OSINT分析 — Xの外の指標はいつ動いたか

4. 評価 — この分析から何が言えるか

5. 今後の方向性 — 選挙分析から情勢分析全般へ

Appendix A 発信ナラティブ一覧 / B 反応ナラティブ一覧 / C 論点別の元投稿数と反応構成

# 1. 分析手法 — データと3つのAI分析

## 1.1 データ: 4つのアカウントの発信と、それへの71万件の反応

分析対象は、Xの公開投稿データである。まず、両候補の公式アカウント (タラリコ @jamestalarico、パクストン @KenPaxtonTX) に加え、州レベルの選挙運動を担う両党の州組織アカウント (テキサス州民主党 @texasdemocrats、テキサス州共和党 @TexasGOP) の計4アカウントを対象とした。この4アカウントが2026年4月1日から10月16日まで (世界標準時) に投稿した発信 2,042件を収集した。他人の投稿をそのまま転載するリポストは、本人の言葉ではないため数えていない。内訳はタラリコ 143件、パクストン 656件、州民主党 422件、州共和党 821件である。

次に、その一つひとつの投稿に対して寄せられた「反応」を収集した。反応とは、投稿への返信 (リプライ) と、投稿を引用した投稿 (引用) を指す。重複を除いた反応の総数は 70万5,976件で、タラリコ宛が約33.4万件、パクストン宛が約32.5万件、州民主党宛が約3.0万件、州共和党宛が約1.8万件である。以上がナラティブ分析 (手法①、1.2節) の対象データである。

感情分類 (手法②、1.3節) は、同じ4アカウントのうち候補者2人宛の反応を対象とし、2026年3月1日から10月16日までの分を収集・分類している。起点がナラティブ分析 (4月1日〜) より1ヶ月早いのは、共和党の指名争い (3月3日の予備選から 5月26日の決選投票まで) の全期間を覆い、決選投票を境とした支持構成の前後比較を行うためである。リプライ欄は、その候補者の投稿を見た人々が実名・匿名を問わず直接言葉を投げ込む場であり、支持者の声援も対立陣営の攻撃も入り混じる。この混沌とした言葉の集合を、以下の3つの方法で読み解く。

## 1.2 手法①: ナラティブの自動抽出 — 「語られ方」を読む

第一の手法は、投稿の中で繰り返し語られる「物語」を取り出すものである。本レポートではこの物語の単位を**ナラティブ**と呼ぶ。ナラティブとは、「誰が・何をして・それがどう評価されるか」という因果と評価の構造を備えた言説のまとまりを指す。たとえば「パクストンが富裕な友人の便宜を図って性犯罪者を釈放させた。だから彼に司法を任せてはならない」はひとつのナラティブであり、言い回しが違っても同じ構造を語る投稿は同じナラティブの「担い手」として数えられる。

反応側は全70.6万件のうち、注目の広がりを示すエンゲージメント指標 (引用・返信・リポスト・表示回数の広がりを合成し、同時期・同種の投稿の中での相対的な順位に換算したもの) の上位約1.8万件 (全体の約2.5%) を抽出して分析対象とした (発信側は全2,042件)。

この抽出から検証までの一連の仕組みは、Sakana AI が独自に開発したナラティブ分析パイプラインである。その新しさは2点ある。第一に、言説を話題や感情の分類ではなく**「誰が・何をして・どう評価されるか」という物語の構造単位**で取り出すことである。同じ出来事への言及でも、因果や評価の組み立てが異なれば別の物語として区別され、言

い換えや含意は同じ物語の担い手として束ねられる。第二に、**生成した結果を機械的に原文へ遡って検査し、一つでも不備があれば掲載しない**という設計である。

AIが投稿群から物語の構造を抽出・集約したうえで、複数の異なるAIモデルが合議で「そのナラティブは本当に元の投稿で語られているか」を原文と突き合わせて検証し、1つでも不備が残れば掲載を見送る。掲載の前には編集チェックとして7つの観点の確認を行い、担当者全員が一致したものだけを掲載している。また支持数は、代表投稿の投稿者自身の投稿を除くなどの較正を経た値である (図1)。引用の扱いも単純な原則に従う。レポートに載せる引用はすべて元投稿の本文と一字一句照合し、1件でも一致しないものがあれば掲載自体を止める (本レポートの本文では投稿の転載を避け、趣旨の要約で示す)。もっともらしい要約を生成するだけでなく、**出力のすべてを原文に遡って検証できる**ように設計している。

分析は二段で行う。**ナラティブの抽出 (物語の発見)** は、反応についてはエンゲージメントの高い約1.8万件を対象に行った。物語の代表的な語り手は注目度の高い投稿に現れるため、発見はこの範囲で足りる (逆に、注目度の低い層にしか存在しない物語はこの網にかからず、これは本手法の限界である)。一方、**支持・独立投稿者 (定着の測定)** は、収集した全反応70万5,976件を対象に数えた。発見は代表性の高い層で行い、定着は全数で測る、という役割分担である。

各ナラティブには次の指標を付す。本文および Appendix の表はこの定義で読んでいただきたい。**ID** は分析システムが各ナラティブに割り振る通し番号 (接頭辞の s は物語 = story の意。例: s443) で、照合用の背番号にすぎない。**支持**は、全反応のうち、そのナラティブの中心命題を自分の主張として述べた投稿の数である。言い換えによる同調を含み、単なる話題の一致・疑問・引用・反対は含まない。判定はAIが1件ずつ行い、確信が持てないものは数えない。代表投稿の投稿者自身の投稿は支持に数えない。同じ文面の投稿もそれぞれ1件と数える。

**独立投稿者**は、支持投稿を行った互いに異なるアカウントの数 (代表投稿の投稿者を含む)。「独立」は互いに異なるアカウントという意味であり、ボットや組織的な複数アカウントの除去は行っていない (1.5節)。発信ナラティブの支持・独立投稿者も同じ全反応から数えており、発信側と反応側の表の数字は同じ物差しである。

**推定到達**は、ナラティブを構成する投稿が閲覧された回数の推定合計 (Xの表示回数データに基づく)。「推定」と呼ぶのは、Xの表示回数が閲覧者の実数ではなく表示の回数であり、同じ人が複数の投稿を見た重複も除けないため、到達の実数としては扱えないからである。**アンカー初出**は、その物語を最もまとまった形で語った代表投稿 (アンカー) が現れた日付である。なお、言い換えによる同調は代表投稿より前から存在することがあるため、アンカー初出は「言説が最初に生まれた日」とは限らない。

ナラティブには確からしさの3段階 (**確度**) を付している。**確立**は、互いに独立した100名以上の投稿者が同じ物語を自分の言葉で語り直していると確認されたもの。言説として定着していると読んでよい層である。**拡散先行**は、閲覧・拡散は大きいが担い手の広がりがこの基準に満たないもの (露出が先行しており、定着はこれからという状態)。**フレーミング**は、特定の事件を語るのではなく、「○○は極左だ」のような評価の枠組み・スローガンとして機能しているものである (事件への言及を含む言説でも、投票の呼びかけなどスローガンとして反復されているものは、機能に着目してこの層に分類される)。また反応ナラティブには、それが候補者を利する言説か害する言説か (親/反) の立場ラベルを分析者の判定で付した。

### 1.3 手法②: 反応の大規模感情分類 — 「見られ方」を数える

第二の手法は、反応の一つひとつをAIが読み、それが候補者への「支持」「中立」「批判」のどれにあたるか、またどの論点 (経済、移民、汚職など15分類) について語っているかを判定するものである。なお本レポートで感情分類と呼ぶものは、感情の種類ではなく候補者への態度 (支持・中立・批判) の分類である。判定にあたっては、反応の本文だけでなく、反応が寄せられた元投稿の内容・候補者の情報・投稿者のプロフィールなどさまざまな情報をAIに与え、皮肉や文脈に依存する言い回しも含めて候補者本人への態度を読み取らせる。曖昧な反応やスパムは「中立」に分類する (迷ったら中立に落とす、安全側の設計である)。

対象は候補者2人宛の反応で、合計で約54.7万件を分類した。2026年3月1日〜9月30日分は対象が多く、全件を分類するのは費用に見合わないため、「層化抽出」で選んだ約39万件を分類した。層化抽出とは、全体から無作為に選ぶ代わりに、投稿の月・論点・反応の種別ごとの小さなグループから最低数を確保して選ぶ方法である。少数派のグループが偶然標本から消えることを防ぎ、集計のときには選んだ割合に応じて重みを戻すので、全体の比率は歪まない。ひと言でいえば、まんべんなく抜いて、数えるときに元の構成比へ直す方式であり、世論調査でも使われる統計の作法である。この方式では、比率に 95%信頼区間 (推定の誤差幅) を付すことができる。

一方、2026年10月1日〜16日分は全件を分類できる規模だったため、全件 (約15.7万件) を分類した。基準・AI・手順は3〜9月分と同一で、10月分には抽出に伴う誤差がない。この約15.7万件は、10月に投稿された元投稿 (反応が寄せられた元の投稿) への反応の数である (図5の月次集計とは定義が異なる)。4アカウント・10月中旬までを対象とするナラティブ分析とは集計範囲が異なる箇所があるため、図表に対象期間を明記する。注意すべき点として、ここでの支持・批判は「候補者本人への態度」であり、個別の政策への賛否ではない。また比率は反応という行為の構成比であって、有権者の支持率そのものではない。

この分類が数えるのは、支持・中立・批判という態度の方向だけではない。各反応がどの論点について語っているかを15分類で同時に判定しており、「経済の話題では批判が何割か」といった論点別の反応の質 (2.3節で用いる論点別批判率) は、この判定を土台にしている。手法① (ナラティブ抽出) との関係は分業である。感情分類が「どれだけの反応が・どの方向を向いたか」を数え、ナラティブ抽出が「なぜ・どんな物語によってか」を特定する。同じ反応データを、量の面と質の面から独立に読み、最後に突き合わせる (1.5節)。

### 1.4 手法③: OSINTの統合調査 — Sakana Marlin による独立検証

第三の手法として、X の外側にある公開情報 (OSINT: 世論調査とレース評価 (選挙戦の優劣の格付け)、選挙資金と広告、予測市場、主要メディアの報道、討論会をめぐる経緯) を体系的に収集し、SNS上の観測と突き合わせた。この調査には、Sakana AI が開発した深層リサーチAI「Sakana Marlin」(https://sakana.ai/marlin/) を用いている。

Sakana Marlin は、与えられた問いに対して自律的にWeb上の情報源を調査し、AB-MCTS (複数のAIが仮説の木を並行に探索し、相互評価で最良の分析を選び抜く Sakana AI の独自技術) によってレポートを生成する。単一のAIによる一回の要約ではなく、多数の分析候補を競わせて選抜する仕組みであるため、長大で込み入った調査でも論理の通った報告が得られる。

この統合調査の位置づけについて、正直に記しておきたい。手法②のような統計的な誤差の定量化は、報道・公開資料ベースの情報には適用できない。そのため OSINT 統合は、SNS 分析の結論を「置き換える」ものではなく、その時間的な位置づけを外部の指標で「検証する」補助的な分析である。信頼性の担保として、Sakana Marlin の報告はすべての事実に出典 (媒体名・日付・URL) を付す設計であり、本レポートへの転記にあたっては主要な事実について分析者が原典との突合確認を行った。

### 1.5 3つの手法の関係と、読む上での留意点

ここまでの3つの手法の全体像を図1に示す。共通のデータ収集を起点に、①が「中身」を、②が「量」を、③が「外部の文脈」をそれぞれ独立に処理し、最後に突き合わせる構造である。

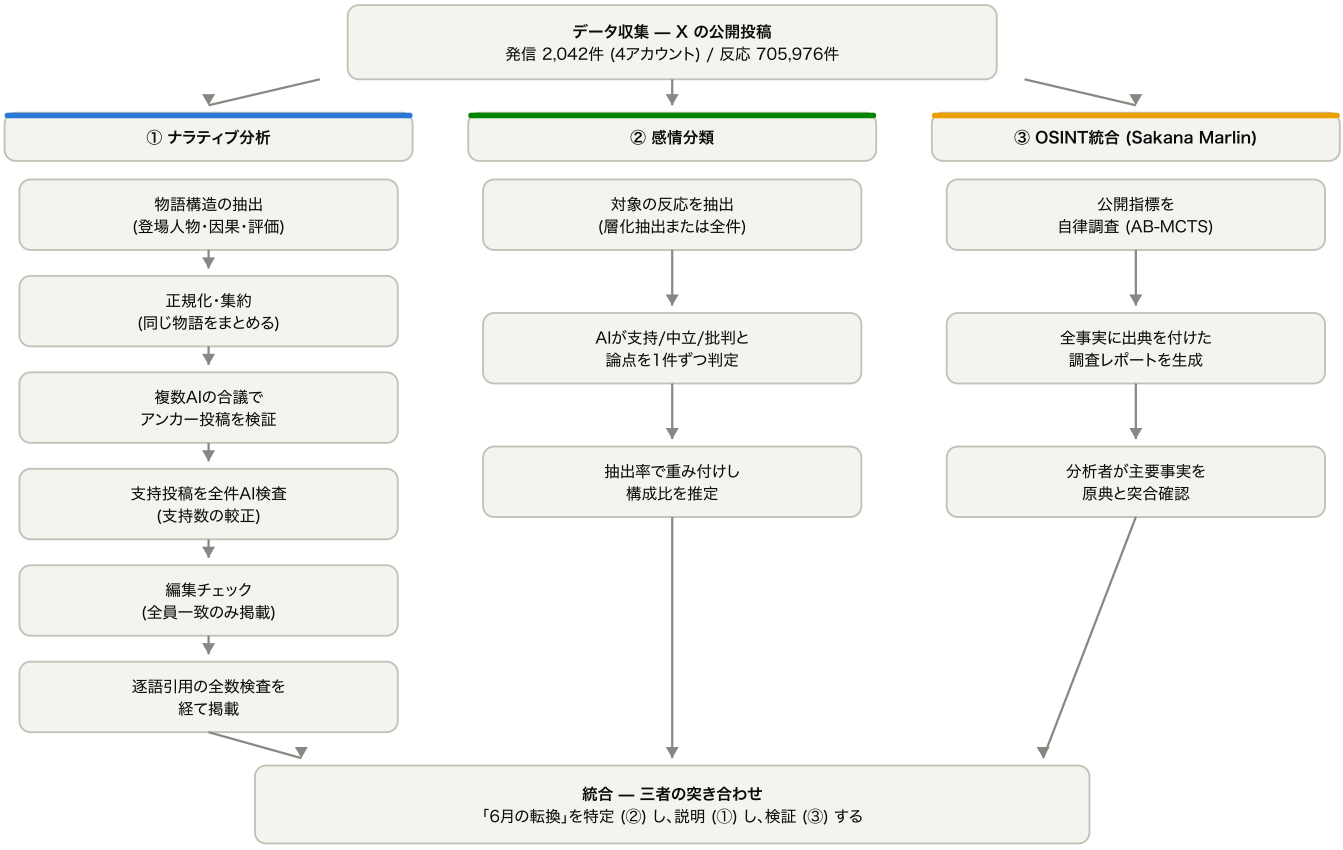



図1: 分析手法の全体フロー。

手法①は「何がどう語られたか」という中身を、手法②は「どれだけの人がどんな態度を向けたか」という量を、手法③は「X の外の世界では何が起きていたか」という文脈を捉える。②の数字が変化した時期に①でどんな物語が増減したかを突き合わせ、さらに③で外部の指標の動きと比較することで、変化の背景を立体的に推測できる。

ただし本分析には限界がある。第一に、リプライ欄に書き込むのはSNS上で積極的に発言する層であり、X利用者全体や有権者の縮図ではない。第二に、組織的な宣伝アカウント (ボット) の除去は行っていない。第三に、95%信頼区間は統計的な抽出誤差のみを表し、AIの分類誤りやX側のデータ提供範囲による偏りは含まない。第四に、世論調査への言及はいずれも報道の転記であり、本分析の出力ではない。これらを踏まえ、本レポートの数字は「X上の言説空間の観測値」として読んでいただきたい。

## 2. ナラティブ分析 — 発信、反応、そして総合

### 2.1 発信 (候補者と政党): 何をどれだけ語ったか

まず発信の側から見る。質 (どんな物語を発信したか) と量 (投稿数と論点の構成) を重ねて読み、タラリコ、パクストン、州政党の順にそれぞれの発信の戦略を分析する。

発信の量から見る (本節の投稿数はリポストを除いた本人作成の投稿で、観測期間は4月1日〜10月16日)。パクストンの投稿数は、共和党の候補者を決める決選投票 (5月26日) に向けた5月に219件と期間中最大に達した。ところが決選投票を制した直後の6月には45件へと5分の1に急減し、以後は本選へ向けて月50〜100件程度で推移した。対照的にタラリコの投稿数は4〜5月には月14件とごく控えめだったが、本選が始まると月を追って増え、9月には30件と序盤の2倍を超えた (図2参照)。もっともタラリコの発信量は絶対数ではパクストンの数分の1に過ぎず、後述する注目度の優位は発信量ではなく、一つひとつの発信の到達力によって生まれている。

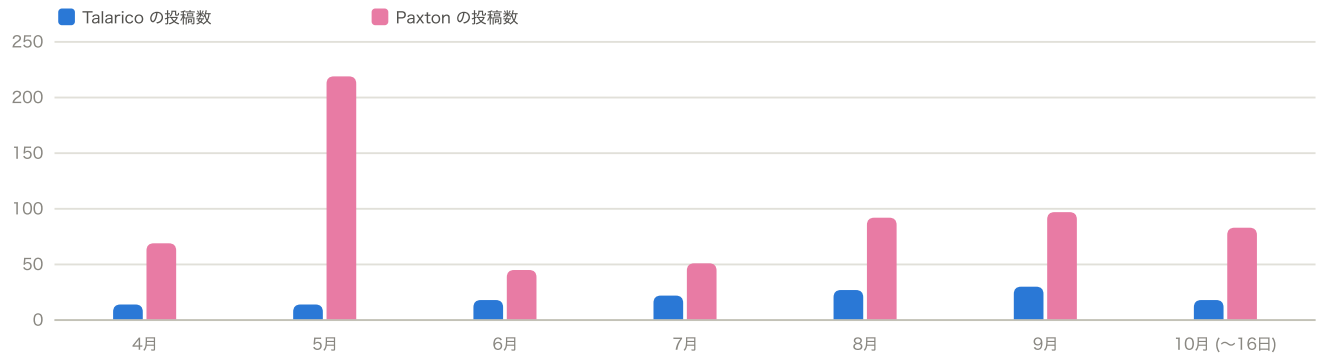



図2: 候補者本人の月次投稿数 (リポスト除く)。

発信の中身を論点で見ると、両候補の戦略がよく見える (図3参照)。タラリコの発信は、4月は経済 (生活費) の話が中心だったが、6月に汚職・倫理が最大の論点となり、9月以降は対立候補攻撃が首位に立つ。ただし図3が示すとおり、9月も経済は発信の相当部分を占めている。発信の重心は生活費の話題から対立候補の追及へ段階的に移ったが、経済はその後も重要な論点であり続けた。パクストンの発信は、5月には告知・広報と選挙動員が大半を占めていたが、決選投票後はその帯が縮み、対立候補攻撃が首位となり、8月以降に経済・医療の帯が現れる。終盤 (10月前半) は両候補とも対立候補攻撃と動員が中心となった。

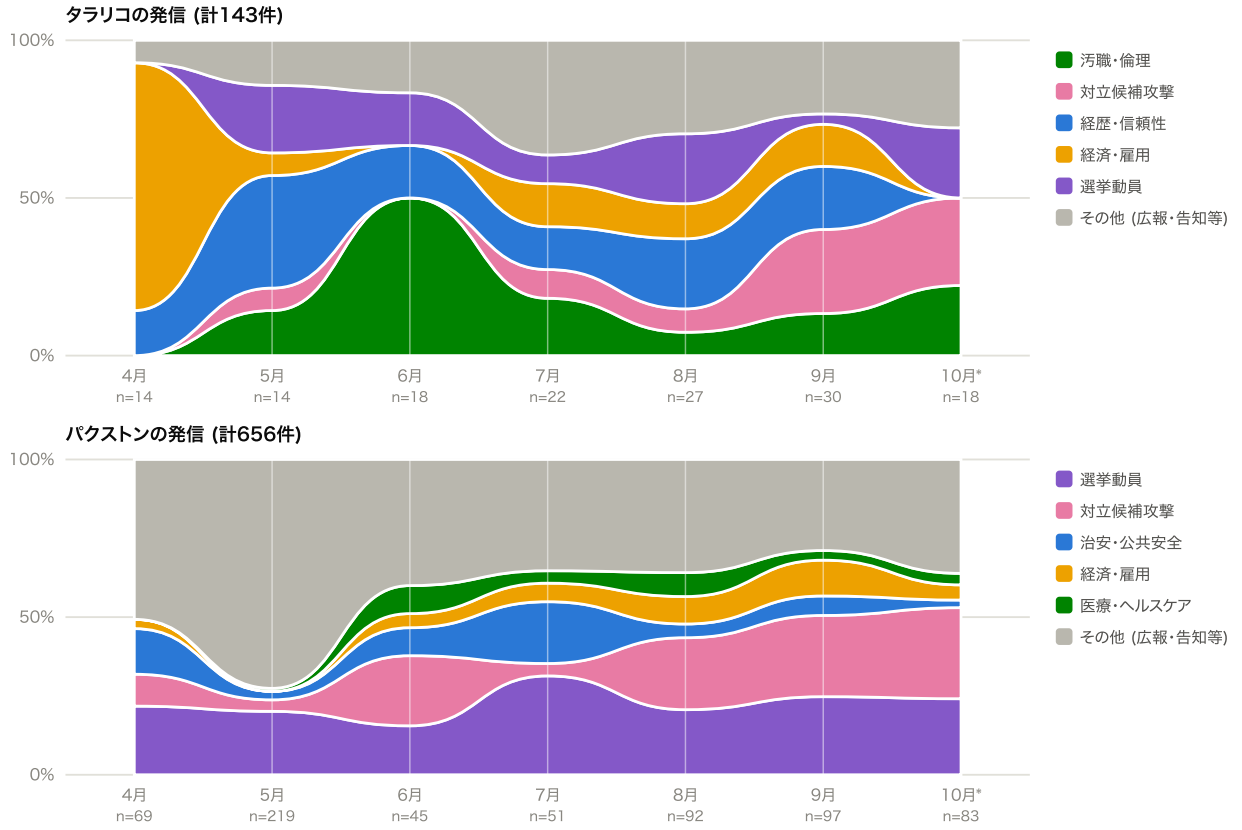



図3: 発信の主論点構成の月次推移 (投稿ごとに主論点1つを付与。4〜10月・リポスト除く。図11・図12の論点別集計 (1投稿に複数論点・3〜9月) とは集計単位が異なる)。15論点を表示用に主要6区分へまとめている。n はその月の投稿数。

### タラリコの発信: スキャンダル追及と感情に訴える全国争点

発信の中身を個別に見る。まずタラリコである (本項と次項の論点別の集計は、感情分類と同じ 3月起点のコーパス (分析対象の投稿データ一式。3〜9月・候補者2人) による)。タラリコは本選期、発信量と狙いを明確に変えた。投稿の数は決選投票まで (3月1日〜6月4日) の43件から本選期 (6月1日〜9月30日) の97件へ倍増し、その増分は「汚職・倫理」(8件から33件へ) と「対立候補攻撃」(10件から31件へ) に集中している。つまり、後述するとおりリプライ欄で自然発生的に再生産されていたパクストンのスキャンダル言説 (2.2節) に、候補者本人が公式の発信で新しい材料を供給し続けた形である。発信ナラティブの到達上位もタラリコがほぼ独占した。

主要な発信ナラティブを個別に見る。到達が最大なのは、「パクストンが登録住所とは別の自宅に住んでいながら不正投票の訴追を免れているのは法の平等適用に反する」とする投票時住所の疑惑追及 (s36) で、7月上旬に現れ推定到達617万回に達した。ただし、この物語を自分の言葉で語り直した投稿者は363人と、閲覧の規模に比べてごく薄い (独立の反応ナラティブとしても抽出されていない)。見られることと語り直されることが別物だという本レポートの観測の、発信側での代表例である。次いで大きいのは、ICE (移民・関税執行局) が5歳児を拘束し、幼稚園ではなく収容所に置いたとする告発 (s62、8月下旬・約318万回) で、これも感情に強く訴える全国争点だが、独立の反応ナラティブとしては抽出されていない。

対照的に、児童性犯罪者の釈放に関する資料公開要求 (s30、6月中旬・約148万回) を含む司法取引の追及は、全反応に対する測定で支持1万件超・独立投稿者5,291人 (s30) と、タラリコの発信の中でも最大級の語り直しを得

ており、反応側でも複数の独立したナラティブ (s120・s275 ほか) として抽出されている。このほか、アマゾン倉庫作業員の死亡を企業の強欲による犠牲とする言説 (s58、8月下旬・約117万回) が、経済・労働の文脈で感情に訴える発信の代表である。タラリコの発信の骨格は、倫理問題の追及と、感情に訴える全国的な争点の2系統である。

この二本柱に収まらないタラリコの発信の持ち味が、聖書である。タラリコは神学校で学んだ経歴を持ち、信仰を前面に出す民主党の政治家として全国メディアでも繰り返し取り上げられてきた。実際のデータで見ると、聖書・信仰に触れた投稿は発信143件のうち12件 (約8%) で、8月に集中している。

その中身は、聖句の引用、礼拝の報告、信仰を政策主張の根拠につなぐ使い方が中心だが、その多くは祈りや道徳訓の定型であり、「誰が・何をして・どう評価されるか」という物語の構造を持たないため、ナラティブとしては抽出されない (定型的な発信が抽出の対象にならないのは、1.2節で述べた手法の性質である)。本データで宗教を物語として使ったのは、信仰を語るタラリコではなく、むしろ攻撃する共和党の側だった (パクストンの項・州政党の項で後述)。

もう一つの終盤の争点であるデータセンター (州政党の項で詳述) について、タラリコ本人の発信は 2件にとどまり、自身の物語に取り込んだのは10月12日の広告が最初である。

### パクストンの発信: 動員と、終盤の逆スキャンダル攻撃

パクストンの発信は対照的に、総量を決選投票までの417件から本選期の285件へ減らした上で、語る論点を入れ替えた。決選期を支えた「選挙動員」(147件から96件へ) と告知・広報的な投稿 (166件から55件へ)、「民主主義・統治」(44件から21件へ) を畳む一方、「経済・雇用」をほぼゼロ (3件) から40件へ、「地域性・州アイデンティティ」を35件から60件へ、「医療」を7件から27件へ増やした。攻撃を受けている倫理問題から離れ、発信の論点を生活に近い領域へ移す守勢の構えと読める。なお、住宅価格や生活費といった暮らしの争点は、この分類では主に「経済・雇用」に含まれる。

手法③による外部照合でも、この選挙戦を貫く最大のフレームは「生活費・物価高」であり (7月の州世論調査では有権者の37%が最重要課題にインフレ・物価高を挙げた)、住宅はその中の下位論点として語られていた。とりわけラティーノ系や若年の有権者で重みを持つ論点である (3.4節)。反応の側でも「テキサス州の生活費高騰と共和党の長期支配を結びつける言説」が確立しており (Appendix B)、生活費は本選の有力な争点だったと言える。

パクストンの発信の論点構成を期間全体で見ると、最大のカテゴリは告知・広報を含む「その他」の31% で、その中身の多くは現職の州司法長官 (AG) としての業務実績の発信である。これに選挙動員の22%、対立候補攻撃の15%が続く。現職の実績をそのまま上院選の物語へ接続する型が特徴で、到達上位に入った「Colony Ridge 訴訟の勝利を挙げ、パクストンを戦いに (上院へ) 送り出すべきだとする勝利の言説」 (s56、8月中旬・約96万回) はその典型である。

そして9月中旬、「タラリコが公職を私益と雇用先の利益に利用した」という逆スキャンダル攻撃 (s90、約138万回) が到達上位に現れる。追及され続けてきた倫理問題の構図を裏返し、終盤に攻守の反転を試みる動きである。なお到達ではタラリコ側に見劣りするパクストンの攻撃発信も、語り直しの測定では一定の定着を得ている。最大は「タラリコが有権者に政治的立場を偽っている」とする言説 (s81、独立投稿者8,396人) で、反応側のレッテル型言説 (2.2節の s628) と同じ物語である。

文化的な争点の発信も目立つ。急進的なトランスジェンダー運動への対策を成果として誇る言説 (s21)、子どもへのジェンダー「移行」処置を推進するとして国際的な医療団体を追及する言説 (s29)、テキサスの教室への十戒掲示を道徳的価値の勝利と位置づける言説 (s7) などである。いずれも司法長官としての実績を文化的な争点の物語に仕立てる発信で、決選期から続いた (Appendix A)。

そして宗教を、攻撃の素材として積極的に使った。パクストン本人は「タラリコの信仰は偽物だ」とするキリスト教を軸にしたタラリコ批判の投稿を7件行い、9月8日には、タラリコの実際の発言をAIで再構成した攻撃広告が州党大会と保守系の放送網で全国に流れた (事実検証団体 FactCheck.org は文脈の欠落を指摘している)。信仰を語るタラリコが聖書を物語化しなかったのに対し、攻撃する側のパクストンが宗教を物語として積極的に使った構図である (タラリコの項)。

データセンター争点への対応も終盤の動きとして特徴的で、パクストンは8月24日にデータセンター政策の投稿を打ち出し、9月以降は規制する側としての調査・政策の発信を重ねて争点を取りにいった (争点の経緯は州政党の項、反応側の受け止めは2.2節で見る)。

### 州政党アカウント: 選挙戦の「主役」は候補者個人

両党の州組織アカウントは、候補者とは対照的な姿を見せた。投稿数では州共和党 (821件) が4アカウント中最多で、特に9月以降は候補者を大きく上回る量で発信している。ところが反応は集まらない。州共和党宛の反応は期間合計で約1.8万件、州民主党宛は約3.0万件で、投稿数が5分の1以下のタラリコ宛 (約33.4万件) の1割にも届かない (表1)。抽出されたナラティブも政党アカウント発・宛はごくわずかだった。X上の選挙言説は政党組織ではなく**候補者個人のリプライ欄で交わされている** ことが、政党アカウントとの対比によってかえって明瞭になる。

| アカウント | 投稿数 (リポスト除く) | 宛先反応数 | うち分析対象 (注目上位) | 発信ナラティブ | 宛先ナラティブ |
|---|---|---|---|---|---|
| @jamestalarico (Talarico) | 143 | 333,823 | 7,162 | 20 | 13 |
| @KenPaxtonTX (Paxton) | 656 | 324,684 | 9,427 | 36 | 33 |
| @texasdemocrats (州民主党) | 422 | 29,899 | 708 | 7 | 2 |
| @TexasGOP (州共和党) | 821 | 17,570 | 466 | 6 | 1 |

表1: 4アカウントの発信量・反応量とナラティブ数 (2026-04-01〜10-16)。

掲載された州政党のナラティブは、州民主党7本・州共和党6本である (Appendix A)。中身を見ると、両党の役割の違いがはっきり分かれる。共和党側のナラティブの一つは、タラリコを急進的な対立者、パクストンを州の擁護者と位置づけて投票を促す言説 (s69) で、パクストン本人の発信 (s42・s43・s64) と同一フレームの党公式版にあたる。

もう一つが、キリスト教である。「現代のジェンダー観や政治に合わせてキリスト教を書き換えるべきではない」とする州共和党の言説 (s86) は、全反応に対する測定で2,166人の独立した担い手を持つ確立の物語として掲載されており (Appendix A)、タラリコの項で述べた「宗教を物語化したのは共和党側」の党組織における実例である。もっとも @TexasGOP の投稿の53%は党大会や組織運営などの動員コンテンツで、対立候補攻撃はわずか2%にすぎず、物語の発信はこの党では例外的である。

民主党側は分業である。州民主党が住所偽装 (s36) やデータセンター献金報道といった腐敗の素材を先行して供給し、候補者タラリコがそれを物語として完成させる構造が観測された。ナラティブをどのアカウントの発信として数えるか (帰属) は構成投稿の多数決で決まるため、複数アカウントの投稿が混ざったナラティブも生じる。たとえばデータセンターの言説 (s110) はタラリコの 10月12日の広告投稿 (アンカー、約3万いいね) と州民主党の2投稿から、住所疑惑 (s36) は州民主党の 7月7日の投稿 (アンカー) とそれに同調するタラリコの投稿から成る。候補者と州組織が、同じ物語の異なる役割を担っていた。

ここで注意すべきは、州政党の物語の「読まれ方」と「語り直され方」が分離していることである。州政党の投稿は党大会や集会告知などフォロワー向けの発信が中心で、投稿あたりの閲覧の中央値 (半数がこの値以下になる真ん中の値) は州共和党で約1,700回・州民主党で約3,500回と、タラリコの約29万回・パクストンの約3.2万回より桁違いに小さい。党のリプライ欄に反応もほとんど集まらない (表1)。

ところが、党の物語の中心命題を全反応70.6万件に対して測定すると、同じ物語を自分の言葉で語り直す一般ユーザーが候補者のリプライ欄に大量に見つかる。たとえば州共和党の「守護者パクストン対急進タラリコ」のフレーム (s69) は 6,336人の独立した担い手を持つ。**党の発信は読まれていないが、党の物語は候補者のリプライ欄で生きている。**発信の場と定着の場が分離しているのである。これは、州民主党が素材を供給しタラリコが完成させるという先の分業と同じ構造を、担い手の側から見たものと言える。

この分業が最も鮮明に見えるのが、データセンター争点 (州内のデータセンター建設と税優遇・電力負担をめぐる論点) である。この争点は、実は共和党の側から生まれている。地元の反発の報道は2026年2月に始まり、州共和党の執行委員会は3月17日に追加のデータセンター建設への強い反対を公式に決議していた (Texas Tribune 2月13日、州共和党決議)。民主党側の攻撃が本格化する約4ヶ月前である。

ただし観測した4アカウントの発信でこの争点を最も早く・多く扱ったのは州民主党である。6月27日から継続的に計15件を投稿し、8月以降は「パクストンがデータセンター業界から44.8万ドルを受領した」とする腐敗フレームに集約させた。データセンターは、反応の側でも8月に急増して終盤まで注目を集めた重要なイシューであり (2.2節)、それを強く打ち出したのは州民主党の投稿だった。州民主党の投稿の閲覧は総じて小さいが、この腐敗の言説 (s110) だけはナラティブ全体で突出した到達 (約46万回。終盤のタラリコの広告を含む構成) を得ている。

候補者本人はそれほどでもない。パクストンの7件は規制する側としての実績発信で、タラリコは2件にとどまり、@TexasGOP は0件だった。タラリコがこの争点を自身の腐敗ナラティブに取り込んだのは10月12日の広告 (s110 のアンカー) が最初で、州民主党が主導し、タラリコが終盤にそれに乗った形である。なお表の上で s110 の初出が10月12日と遅いのは、初出がアンカー (その物語を最も完成した形で語った代表投稿、1.2節) の日付だからで、争点としての発信は6月末から先行している。

### 両者の発信の総合

両者の発信を重ねると、攻守の構図は明瞭である。タラリコは発信量を倍増させて、パクストンの倫理問題と感情に訴える全国争点に攻撃を集中投下し、到達の上位をほぼ独占した。パクストンは発信を減らして動員と実績発信で足場を固め、攻撃されている倫理問題から生活に近い論点へ移す守勢を続けたうえで、9月中旬の逆スキャンダル攻撃 (s90) で反転を試みた。発信ナラティブの初出時期と到達を図4に示す。タラリコ側の到達の大きい発信ナラティブが

6月以降ほぼ毎月現れるのに対し、パクストン側の反撃は 8月中旬以降に集中しており、攻守の時間差が見てとれる。抽出された発信ナラティブ全69本の一覧と、反応側のナラティブとの呼応の対応は Appendix A に示す。

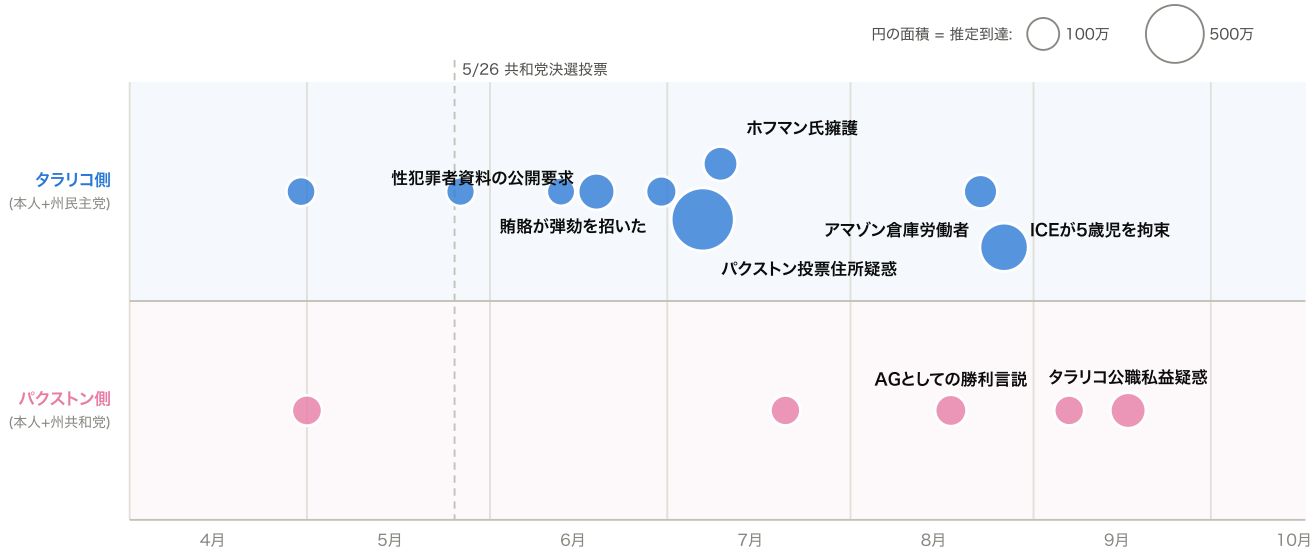



図4: 発信ナラティブの初出時期と推定到達 (2026-04-01〜10-16、到達上位14本)。上段がタラリコ側 (本人・州民主党)、下段がパクストン側 (本人・州共和党)、円の面積は推定到達に対応する。ラベルは主要8本のみ付した。

## 2.2 反応: 誰がどう受け止めたか

次に反応の側に移る。反応の量と感情の構成を押さえたうえで、どんな物語が反応を構成していたかという質を重ね、パクストン宛、タラリコ宛の順に読み解く。

反応の量は、2.1節で見た発信量の交代 (パクストンの急減とタラリコの増加) を増幅した形で動いた。4月の反応数はパクストン宛が約2.0万件、タラリコ宛が約1.3万件、5月もパクストン宛約4.9万件に対しタラリコ宛約3.8万件と、注目の中心はパクストンにあった。ところが6月、パクストン宛の反応が約1.9万件へと半分以下に急減する一方でタラリコ宛は約2.7万件となり、量の優劣が逆転した。7月はパクストン宛約1.5万件に対しタラリコ宛約3.5万件と差が開き、9月にはタラリコ宛約8.9万件、パクストン宛約8.1万件と両者とも大きく膨らんだ (図5参照)。決選投票を境に、X上の注目の中心が交代したことが量の面から確認できる。

ただし観測期間の最終盤に、注目すべき変化がある。10月前半 (1〜16日) の反応数は、パクストン宛が約8.7万件とタラリコ宛の約7.4万件を再び上回った。半月でこの水準に達するのは期間を通じて最大のペースであり、保守側の大型広告投下が報じられた時期とも重なる。後述のとおり、この再反転の中身は支持の回復ではなく、批判のさらなる殺到だった (10月分の感情分類は本分析で追加した。次項参照)。

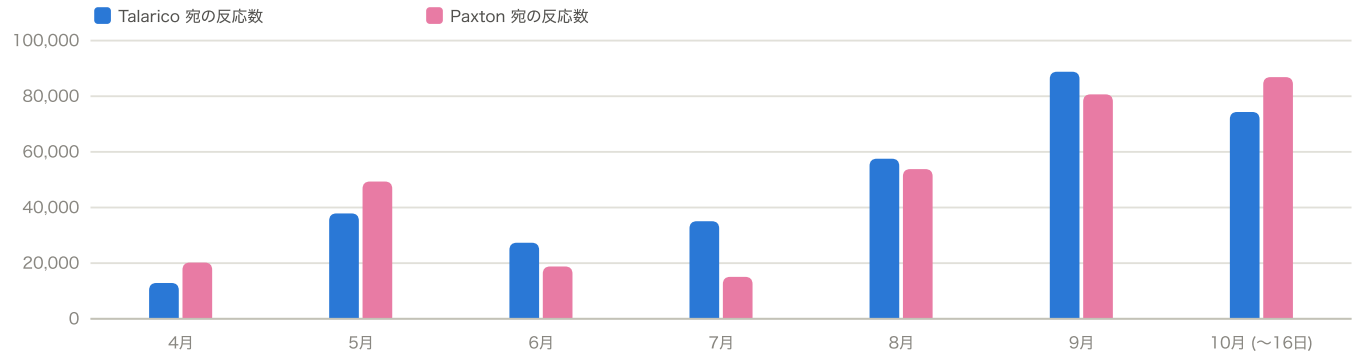



図5: 候補者宛の月次反応数 (リプライ+引用、収集全量。10月は16日まで)。

### 支持と批判: パクストンへの批判は19.5%から63.6%へ

では、反応の「中身の比率」はどう動いたか。手法②の感情分類によれば、決選投票まで (3月1日〜6月4日) のパクストン宛反応は、支持が 49.6%、批判が 27.9% と、支持が批判を大きく上回っていた。ところが本選期 (6月1日〜9月30日) には支持 18.1%、批判 59.2% と、構成が完全に裏返った (図6参照)。これは約39万件の分類に基づく推定であり、統計的な誤差幅はおおむね±0.3ポイント程度にすぎないため、偶然の揺らぎでは説明できない。なおこの誤差幅は抽出に伴うものだけで、AIの分類誤りや、同じ投稿のリプライ欄の中で意見が相関する効果は含まない (1.5節)。

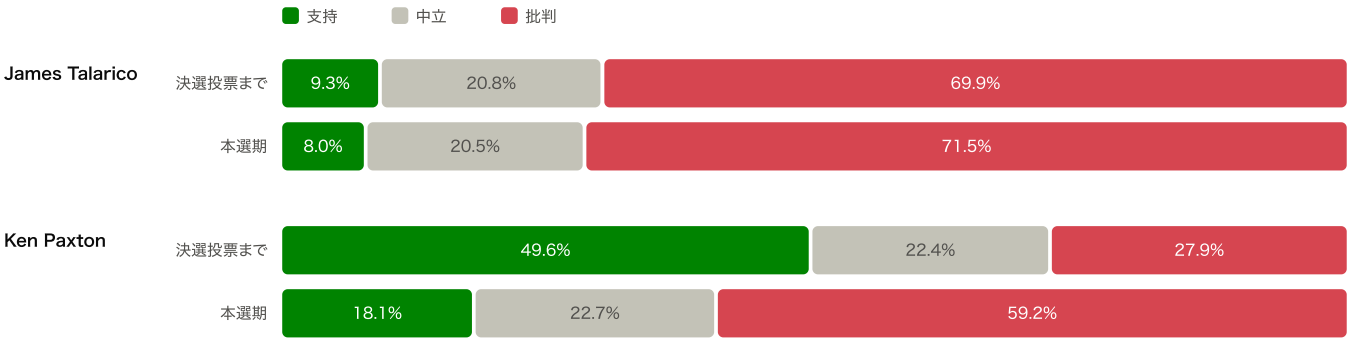



図6: 反応に占める支持・中立・批判の構成比 (決選投票まで: 3月1日〜6月4日 / 本選期: 6月1日〜9月30日)。

月を追うと、転換の時期はさらにはっきりする。パクストン宛反応の批判割合は3月 19.5%、4月 24.1%、5月 33.9% と徐々に上昇していたが、決選投票を挟んだ6月に 54.8% へと約21ポイント跳ね上がり、その後も7月 55.8%、8月 61.2%、9月 59.5% と高い水準を保った (図7参照)。毎月一方向に増え続けたわけではなく、6月を境に水準そのものが切り替わった形である。支持の割合は3月の 59.2% から毎月下がり続け、6月に 21.7% まで落ちて以後は17〜22%にとどまった (図8参照)。批判が増えただけでなく支持の反応そのものが細っており、「アンチが押し寄せた」だけでは説明できない。

一方タラリコ宛の批判割合は期間を通じて 68〜74% の狭い幅で安定しており、支持も 6〜11% で一定である。つまりこの観測期間に起きた変化は、ほぼすべてパクストンの側で起きた。そして10月 (1〜16日、本分析による追加分類・全件) には、パクストンへの批判は 63.6% と期間最大に達し、支持は 13.1% と最低を更新した。一方タラリコ

への批判は 63.1% と、期間を通じて初めて68〜74%の帯を下回った。両候補の批判率が63%台で並んだのは観測期間で初めてである。

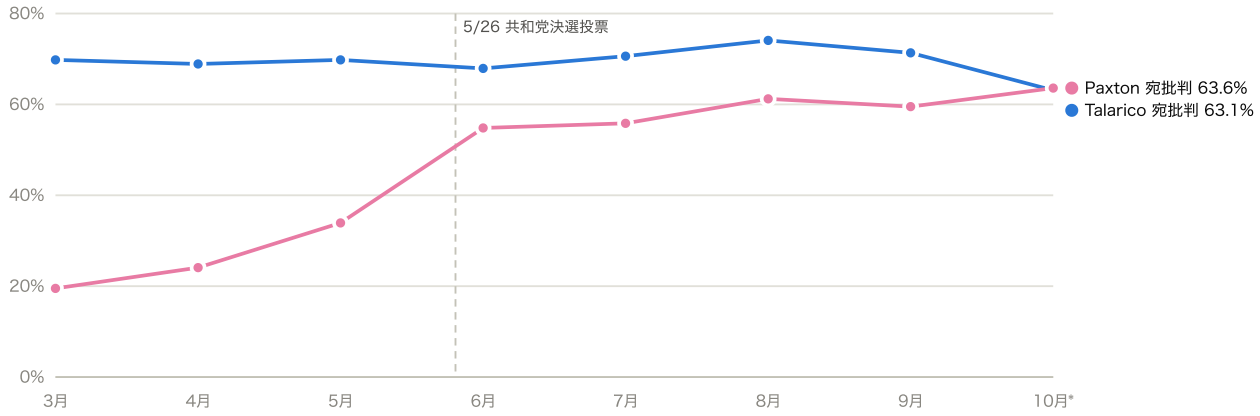



図7: 批判反応率の月次推移 (2026年3月〜10月16日。10月分は本分析による追加分類・全件)。

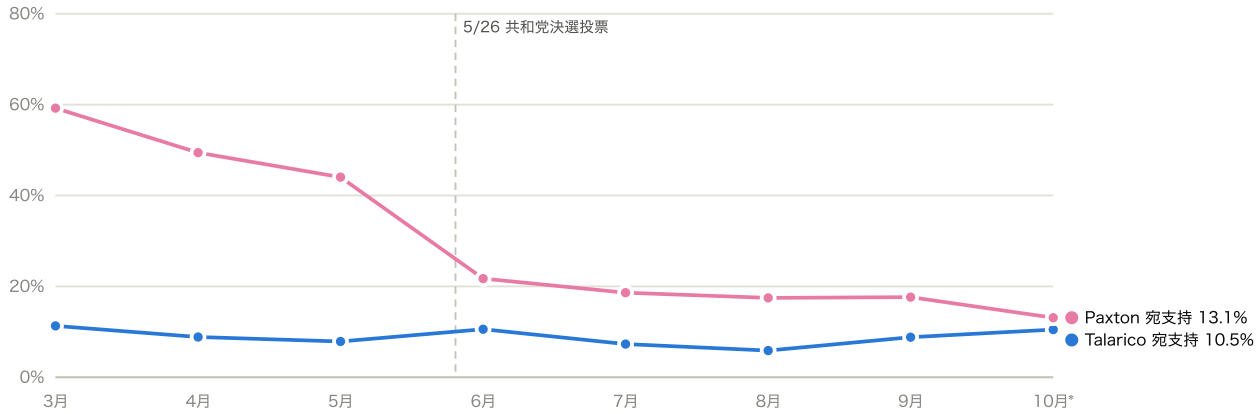



図8: 支持反応率の月次推移 (2026年3月〜10月16日。10月分は本分析による追加分類・全件)。

### 反応ナラティブ: 物語を担い手で測る

反応の中身に入る前に、どの物差しで言説を測るべきかに触れておきたい。最も素朴な物差しは閲覧数 (どれだけ見られたか) だが、これで反応を並べると、この選挙戦の「最大の言説」は衣料品の化学物質をめぐる消費者話題 (推定到達505万回。ただし自分の主張として語り直した人は113人で、閲覧の4万分の1に満たない) になってしまう。選挙と無関係な一過性のバズが、閲覧数の上ではすべての選挙言説を上回るのである。本レポートが閲覧数ではなく**担い手** (その物語を自分の主張として語った人の数) と確度の3層 (1.2節) を物差しにするのはこのためで、同じ期間を担い手で測ると、最大の言説は1万4,000人超の独立した担い手を持つ動員の物語になる。

この乖離は個別の例にとどまらない。掲載した49本の全体で推定到達と支持数の順位相関 (Spearman。1に近いほど順位が一致し、0なら無関係であることを示す係数) を取ると 0.048 で、どれだけ閲覧されたかは、どれだけ語り直されたかを事実上予測しない。逆方向の例もある。「タラリコが当選すればテキサスがカリフォルニアのようになる」とする言説 (s474) は推定到達が約1.1万回しかないのに、1,925人の独立した投稿者が自分の言葉で語り直していた。

閲覧・拡散は言説の「露出」を測り、担い手は言説の「定着」を測る。情勢を動かすのは後者である。誰がどの物語を自分の言葉で語ったかまで確認するナラティブ分析は、件数や閲覧数の集計よりも言論の実勢を正確に捉えることができる。以降の記述が担い手と確度を軸に進むのは、この理由による。抽出された反応ナラティブ全49本の一覧と各指標は Appendix B に示す。

### パクストンへの反応: 支持の崩壊と物語の交代

なぜパクストンへの批判は6月に跳ね上がったのか。手法①で抽出したナラティブの推移から、この理由を説明できる。

決選投票までのパクストンのリプライ欄を覆っていたのは、攻撃ではなく、支持層を結集させる動員の言説だった。最大のものは「ケン・パクストンを支持し、対立候補やRINOを退けよう」という呼びかけ (s57) である。RINOは Republican In Name Only の略で、「名ばかり共和党員」という党内の裏切り者を指すスラングである。この言説は1万4,072人という期間最大の独立した担い手を持つ。これに「トランプの壁の完成が南テキサスを犯罪者やカルテルから守る」 (s443、支持1万7,166件・担い手9,048人)、「テキサスを脅かす政治家に対抗する州の守り手がパクストンだ」といった物語が並ぶ。

たとえば決選投票の直前には、党内対立候補コーニンの「失点」を挙げ、すべてを大文字で叫ぶように、パクストンに投票すべき理由がもう一つ要るだろうか、とテキサスの有権者へ呼びかける趣旨の投稿が典型だった。これらは5月に投稿量のピークを迎え、パクストン宛反応の「支持49.6%」の中身を構成していた。ところが決選投票の勝利によって「党内の敵を倒す」という物語は語る理由を失い、6月以降、これらの言説は一旦大きくしぼんだ (図9参照)。退潮の速さは日次の集計ではっきり分かる。動員言説の支持投稿は決選投票翌日の5月27日に日次2,251件の最大値を付けた後、2日で9割減った。

入れ替わりに前面へ出たのが、スキャンダルの物語である。中心は児童性犯罪者への司法取引をめぐる物語の束で、最大の変種は「富裕な弁護士の友人の関与で性犯罪者を釈放した」(s150、支持 1万9,039件・担い手7,910人) である。これに「有罪判決を受けた性犯罪者に便宜的な取引を与えた」(s275、支持9,495件・担い手4,898人)、「パクストンの事務所が寛大な司法取引を与えた」(s120、支持7,776件・担い手4,182人)、「献金者から賄賂を受け取りぜいたくな生活を送っている」といった変種が続く。9月にはこれらを束ねる形で、パクストンを「汚職などで追及された政治的負債」と位置づける総括型の言説 (s561、支持2万9,661件・担い手1万2,702人) が現れた。

この人物評価の系統は、反応全体に占める月次の比率でも4月の1.6%から選挙戦終盤の6.7%へ漸増しながら流れ続けた。固有の事件・人物・量刑を伴うこれらの言説は、決選期にはすでに流通していた。典型的な投稿は、「友人のために司法取引をまとめ、児童への性的加害者が禁錮30日で済んだ。それが彼の生きる世界だ」という趣旨で具体的な量刑まで挙げて批判するもの、あるいは「身内の共和党が多数を占める州下院で収賄・汚職・職権乱用により弾劾された人物だ」と経歴を列挙するものである。固有名詞と量刑を伴う具体性が、この系統の言説の増殖力の源である。

決選期には動員言説の量に埋もれて目立たなかったが、動員言説の退潮によってリプライ欄の基調として表に出て、さらに本選期のタラリコ陣営の攻勢 (2.1節) が再生産を支えた。6月の反転は、この**「動員の物語」から「スキャンダルの物語」への入れ替わり**として説明できる。なお図9が示すとおり、動員型の言説 (壁の完成・反RINO) は投票日が近づいた8月以降、件数の上では再び増勢へ転じており (もっとも反応全体に占める月次の比率では、4〜5月の11.2%

から6月以降の3〜4%に下がったままで、決選前の水準には戻っていない)、本節の冒頭で見た10月の反応量の再反転と軌を一にする。終盤の保守側の動員再活性は、量・中身の両面から観測されつつある。

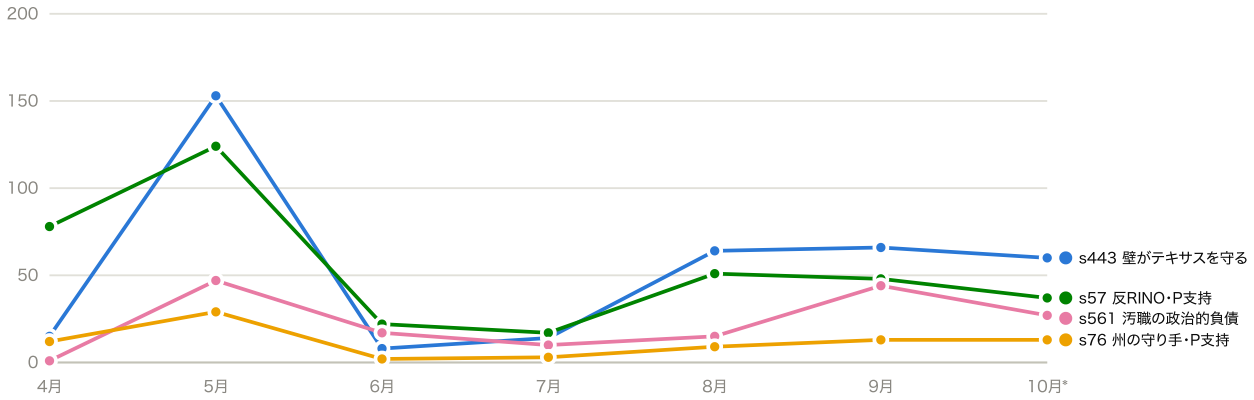



図9: パクストン宛の主要反応ナラティブ (紐付き投稿数の上位4本、s176 を除く。Appendix B の注記参照) の月次投稿数 (10月は16日まで)。紐付き投稿数は、抽出対象 (注目上位約1.8万件、1.2節) のうちそのナラティブに結び付いた投稿の月次数で、全反応70.6万件に対する支持数とは母集団が異なる。アンカー初出が8〜9月の言説 (s443・s561) にも5月の同調投稿があるのは、言い換えによる同調が代表投稿より前から存在するため (1.2節)。

### タラリコへの反応: 安定した批判と、その構造

タラリコ宛の反応は、対照的に動かなかった。先に見たとおり、批判割合は3〜9月を通じて 68〜74% の狭い幅で、支持は 6〜11% で安定している (図7・図8参照)。もっとも、批判割合が7割前後と高いこと自体は、劣勢の証拠ではない。挑戦者のリプライ欄には対立陣営からの攻撃が集まりやすいという構造的な事情があるため、読み取るべきは水準そのものより、変化と批判の中身である。

タラリコに向けられた批判の代表は、「テレビで穏健派を名乗るタラリコは偽装だ」(s628) 「タラリコは米国の破壊を狙う急進派だ」というレッテル貼り型の物語である (図10参照)。典型的な投稿は「我々は『二人のタラリコ』を見ている。1人目はテレビで穏健派を自称し、2人目は正反対の顔を持つ」という趣旨で二面性を印象づけるものである。これらの言説はタラリコ自身のリプライ欄だけでなくパクストンの投稿のリプライ欄にもまたがって現れ、多くの場合「だからパクストンに投票を」という支持表明と一体で唱えられている。つまりタラリコ批判の相当部分は、対立陣営の支持行動の一部として再生産されているものである。

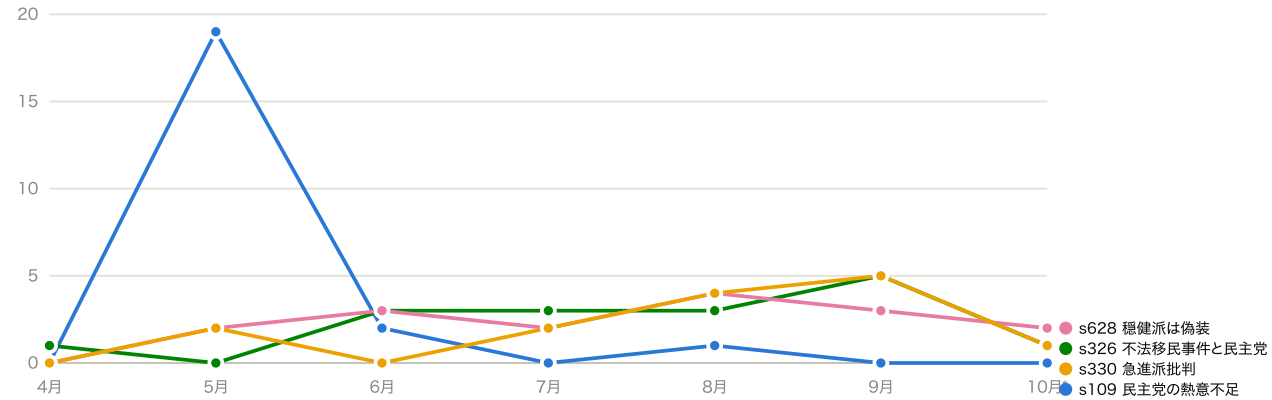



図10: タラリコ宛の主要反応ナラティブ (紐付き投稿数の上位4本) の月次投稿数 (10月は16日まで)。紐付き投稿数の定義は図9と同じ。

そして、タラリコ攻撃には「○○事件」のような具体的な事実の核が乏しく、司法取引や賄賂のような変種を生みながら増殖する力を持たない。数少ない例外は、個別の移民事件を引く言説 (s326) と、「民主党の熱意不足で資金が集まらずタラリコは敗北する」という情勢論 (s109) だが、前者は候補者本人のスキャンダルではなく、後者が語る資金難は、候補者資金ではタラリコが圧倒していたという連邦選挙委員会の資金報告の実態 (3.2節・表2) と整合しない。

### 論点の断面: 聖書とデータセンターへの反応

反応の性質をよく示す断面として、2.1節で見た2つの論点が反応側でどう受け止められたかを確かめた。まず聖書である。宗教に関わる語を含む反応は約3.9万件 (全反応の5.6%。関連語による機械的な検索で数えた) にのぼり、その6割超がタラリコ宛に集中した。ピークは9月で、「イエスは病人を癒すとき自己負担額を求めなかった」という趣旨のタラリコの投稿 (9月28日) が、単独で5千件を超える宗教的な反応を誘発している。

方向の内訳は約430件の精読サンプルによる推定である。これによると、「宗教を政治に持ち込むな」という世俗的な反発は3%弱しかなく、最大勢力 (約6割) は「偽クリスチャン・偽預言者」としてタラリコの信仰の真正性を否定する攻撃だった。対抗する聖句を挙げて引用そのものに反論する投稿も1〜2割あり、最も多い論理は「イエスは自発的に癒したのであり、政府や課税に委ねたのではない」という、信仰の政策への接続自体を切断する反論である。一方パクストン宛では、十戒の教室掲示の推進と本人の不倫・弾劾歴を並べる偽善批判が宗教的反応の最大勢力 (約4割) を占め、十戒関連の反応はほぼすべてが揶揄だった。

つまり反応空間の宗教は「キリスト教 対 世俗」の対立ではなく、**どちらの信仰が本物かを双方向に争う、キリスト教の内側の攻防**である。なおこれほどの量がありながら宗教を核とするナラティブが掲載に至らないのは、攻撃が過去発言の列挙や単発の聖句の応酬など命題のレベルで細分化しており、同じ物語への反復的な同調が成立しないためである。

データセンターは対照的に、量は約2,100件と宗教の約20分の1にすぎないが、時間の形が興味深い。発信側の争点化 (州民主党による6月末の争点化、2.1節) から約1ヶ月半遅れて、反応側は8月に急増した。しかも着火点は攻撃側の投稿ではなく、**パクストンが8月24日に打ち出したデータセンター政策の投稿 (2.1節) に、攻撃的な反応が流れ込んだ**ことである (データセンター側の方向の内訳は約370件の精読サンプルによる推定)。以後、パクストン宛のデータセンター言及は攻撃系が6割超を占め、本人が9月以降に重ねた調査・政策の発信 (2.1節) への反応は、支持1件に対して「選挙前のにわか転向」とみなす冷笑が13件 (精読150件中) と、争点を取りにいった動きがかえって批判を呼び込んだ。

共和側の反論が存在しないわけではない。10月のタラリコの広告へのリプライ欄では反論が過半を占めたが、その中身は雇用や対中競争といった政策の擁護ではなく、「この反AI広告自体がAIで作られている」「タラリコ側もAI業界の大口資金を受けている」という、相手の資格を突く反撃だった。聖書と同じく、ここでも政策の論争は**真正性と偽善をめぐる争いに置き換わっている。**

### 両者への反応の総合

両者への反応を重ねると、攻撃の質の違いがはっきりする。**反パクストン言説は具体的スキャンダルを核に変種を生み続け、反タラリコ言説は支持表明とセットで反復されるレッテル型にとどまった。**前者は事件・人物・量刑という事実の核を持つため、新しい報道や発信のたびに変種を生んで増殖し、論点を選ばない人物評価として定着した。後者は対立陣営の応援活動の一部として反復されるにとどまり、新しい層へ広がる動きを欠いた。この質の違いが、観測期間の変化がほぼすべてパクストンの側で起きたという感情分類の観測 (図7参照) を、ナラティブの側から説明する。

## 2.3 総合的な分析: 3つの発見

発信と反応、量と質を重ね合わせると、この選挙戦のX空間は3つの発見に要約できる。この3つは、要旨で述べた3つのポイントにそれぞれ対応する。

### 第一の発見 (反応): 表面の数字は中身と二度逆行し、終盤は互いに批判し合う接戦に至った

世論調査や選挙分析では早くから接戦となり、8月頃からはタラリコ優位で固まったように見える (3.1節)。ところがXの表面の数字は逆だった。序盤 (2026年3〜5月) の候補者宛の反応量はパクストン宛が約12.0万件、タラリコ宛が約8.5万件と、パクストンが約1.4倍を集めていた (3月分は感情分類コーパスの値)。発信の総閲覧 (観測期間全体) もパクストン約9,700万回に対しタラリコ約9,000万回とパクストンが上回る。しかもパクストン宛反応の約5割 (49.6%) は支持で、タラリコ宛は 68〜74% が批判だった (2.2節)。額面どおりに読めば、X上で優勢なのはパクストンだった。

しかし反応の中身と推移を読むと、異なる姿が浮かび上がる。パクストン宛の支持は5月26日の共和党決選投票を境に 49.6% から 18.1% へ急落し、批判は 27.9% から 59.2% へ急増した (図6参照)。決選投票の勝利で「党内の敵を倒す」という動員の物語が役割を失って語られなくなり (図9参照)、決選期から流通し続けていた性犯罪者への司法取引優遇などのスキャンダルの物語が、リプライ欄の基調として前面に出たためである (2.2節)。候補者の確定を引き金とするこの物語の交代が、SNS分析で最も明確に観測された選挙戦の転換要因である。

一方タラリコ宛の批判はおよそ7割で推移し続けたが、その大半は「だからパクストンに投票を」というパクストン支持の裏返しであり、新しい層へ広がっていない (2.2節)。この分離は、収集した全反応70.6万件に対する検証済みの支持判定を使い、誰がどの物語を語ったかを突き合わせることで直接確かめられる。行動の記録では、反応を20件以上書き込む活発なアカウントの65.6%が両候補のリプライ欄に現れ、言説空間は混ざり合っているように見える。しかし語りの中身では、反パクストン言説の投稿者 2万4,888人と反タラリコ言説の投稿者1万6,496人のうち、両方の物語を語った投稿者は673人 (反パクストン側の2.7%、反タラリコ側の4.1%) にとどまる。

この673人の原文をサンプルで精読すると、約3分の1から半数は「パクストンの司法取引や私生活を批判しつつ、タラリコにも投票しない」と語る本物の両面批判者で、推定220〜340人の規模で実在する。つまり両面批判者は不在ではないが、言説空間の大多数 (約96〜97%) は片側の陣営に閉じており、批判の応酬は、同じ人々による両叩きではなく、主として二つの別の集団が相手候補のリプライ欄に出向いて衝突している構図である。したがって、序盤に見えた表面のパクストン優勢は有権者全体の意見傾向ではなく、パクストン支持者の動きが実勢以上に映り込んだものだった。

批判が論点ではなく人物に付いていることも、この構図を裏付ける。パクストンが攻撃を受けている倫理問題から経済や医療など生活に近い論点へ発信を移したことは、2.1節で見た。しかし結果は芳しくない。論点別に反応の批判率を見ると (図11・図12参照、全数値はAppendix C)、転換先であるはずの経済は批判が 20% から 62% へ3倍に、医療は 31% から 50% へ、州アイデンティティは 45% から 57% へと、教育 (59%から54%へ低下) を唯一の例外として、ほぼすべての論点で批判率が上昇した。**語る論点を変えても、見られ方は変わらなかった**のである。

これは、スキャンダルの物語が特定の論点に閉じず、パクストンが何を語ってもそのリプライ欄に現れる「人物評価」の言説になっていることを裏付けている。なお、リプライ欄に集まる人々の構成が反転すればどの論点でも批判率は機械的に上がりうるため、この集計が示すのは「論点を乗り換えても見られ方が変わらなかった」という事実までである。

**タラリコ (Talarico・民主党) の論点別発信と批判率**

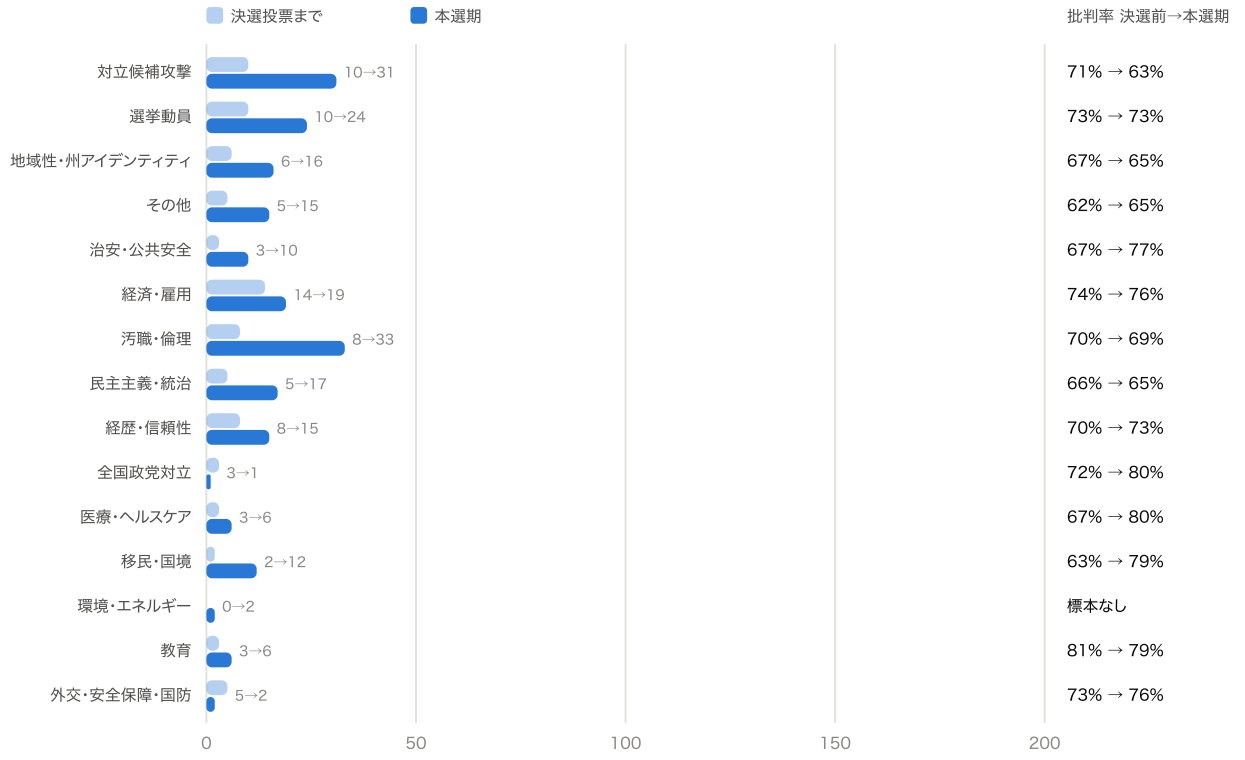



図11: タラリコの論点別発信量 (決選投票まで/本選期) と批判率 (2026年3〜9月)。論点は1投稿に複数付与されるため合計は投稿総数を上回る。棒に添えた数字 (決選投票まで→本選期) は論点別の投稿数。

**パクストン (Paxton・共和党) の論点別発信と批判率**

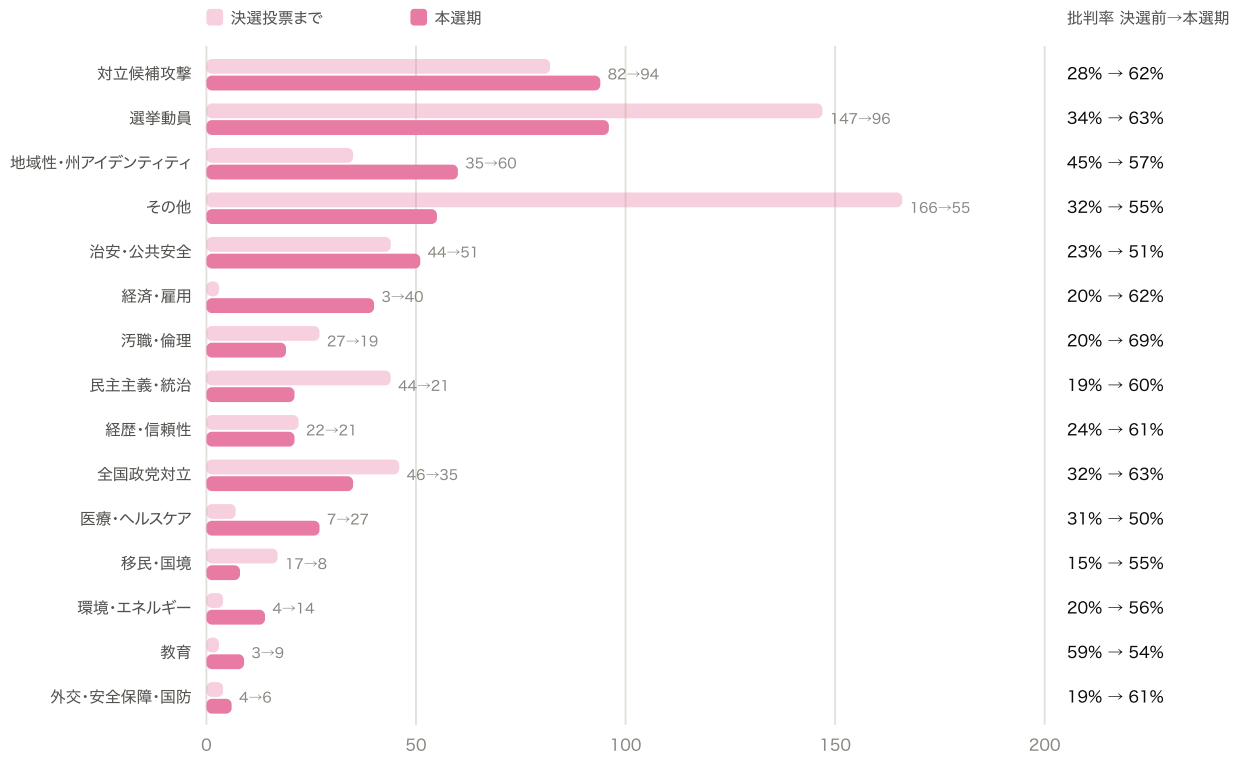



図12: パクストンの論点別発信量 (決選投票まで/本選期) と批判率 (2026年3〜9月)。

同じ論点でも、責任の宛先が逆を向く物語は並走する。パクストン側は終盤、「タラリコの政策がテキサス州民を過重課税に追い込む」という増税批判 (s114) を投下し、この物語は 897人の独立した投稿者に語り直されて確立した。しかしまったく同じ生活費の話題で、「テキサス州の生活費高騰は約30年続く共和党の州支配の責任だ」とする逆向きの言説 (s713、独立投稿者780人) もほぼ同じ規模で確立している。生活費を語れば勝てるわけではなく、生活費の責任を誰に帰すかの綱引きが起きており、この面でも決め手はどちらの側にもない。

観測の最終盤には、表面の数字と中身の逆行がもう一度起きた。10月前半 (1〜16日)、パクストン宛の反応量が約8.7万件と、タラリコ宛の約7.4万件を再び上回り、数字の上では保守側の巻き返しに見えた (2.2節)。この再活性の背景には8月末以降の保守側の大規模な資金・広告の投下があり (3.2節)、決選後に退潮していた動員型の言説も8月以降、件数の上では再増勢に転じていた (2.2節)。

しかし中身は支持の回復ではなく批判の殺到で、パクストン宛の批判率は 63.6% と期間最大に達した。同時にタラリコ宛の批判率は観測期間で初めて低下し、両候補の批判率は63%台で並んだ。もっともタラリコ宛も、批判の比率は下がった一方で、半月で約7.4万件という反応量自体が期間最大のペースであり、批判の件数としてはむしろ増えている。資金と広告の投入は反応の量を押し上げたが、批判が優勢な構成を変えるには至っていない。

終盤の言説空間には、もう一つ意外な性質がある。抽出対象の反応1,000件あたりの新規ナラティブの発生率は4月の約70本から10月の約34本へ半減しており、投票日が近づくほど新しい物語が生まれるという直感は成り立たない。10月に新しく生まれた数少ない物語は、移民や経済といった政策ではなく、タラリコを標的とする偽のAI生成広告への批判 (10月2日初出、10月に支持が加速)、陣営側の醜聞工作を暴く言説、セレブリティの支持表明への反発

という、選挙戦の情報戦そのものを題材とするものだった。終盤の言説空間は、既存の物語の反復と「キャンペーンについてのキャンペーン」で占められていた。

以上を選挙戦の有利不利として総合すると、次のようになる。**序盤はパクストン優位に見えたが、その実体は党内動員だった。6月以降は批判の質・量の両面でタラリコ優位となり、終盤は大規模な資金・広告の投入でも批判優位は覆らなかった。とはいえ、タラリコ優位の趨勢は続いているものの、パクストンの発信量とそれに呼応する反応の勢い、そしてタラリコへの批判も件数としては増えていることを考え合わせると、選挙戦は終盤において、互いに強く批判し合う接戦の様相を呈している。** この読みは、9月中旬以降の世論調査平均でタラリコが2〜3ポイントという僅差で上回って推移しているという情勢 (3.1節) とも整合する。

**第二の発見 (発信者): 戦略は非対称で、政策の論争は真正性の争いに置き換わった**

発信の側から見ると、両陣営の戦略は非対称だった。タラリコは発信量を倍増させ、軸としてきた経済 (生活費) を保ちながら、汚職追及と対立候補攻撃へ重心を移した (2.1節)。4月に中心だった経済の言及は9月まで相当の割合を保っており、スキャンダル追及へのシフトは経済を捨てる形では行われていない。意外なのは聖書の位置づけである。神学校で学んだ経歴で知られるタラリコの聖書・信仰の投稿は発信の約8%にとどまり、物語の構造も持たない。宗教を物語として使ったのは、むしろパクストン (信仰を偽物とする攻撃とAI再構成広告) と州共和党 (キリスト教の書き換え批判 s86) の側だった (2.1節)。

パクストンの発信は、積極的に語れる中身を欠いていた。中心は司法長官としての実績の広報と投票の呼びかけで、攻撃されている倫理問題から経済・医療へ論点を移す守勢が続き、9月中旬の逆スキャンダル攻撃 (s90) で初めて反転を試みた (2.1節)。攻撃の質も両陣営で違った。反パクストン言説は具体的スキャンダルを核に変種を生み続け、反タラリコ言説は支持表明とセットで反復されるレッテル型にとどまった (2.2節の「両者への反応の総合」)。

担い手の側から見ると、この質の違いは語り方の数に現れる。動員言説は1万9,000人超の投稿者が実質1つの呼びかけを反復したのに対し、スキャンダル言説は2万2,000人超の投稿者が、5月中旬から10月中旬までに生まれた11本の異なる物語に分かれてこれを運んだ。観衆の規模が近くても、一方は定型句の反復に、他方は事実の核を持つ変種の増殖になる。攻撃の作られ方そのものが違っていた。

州政党は、候補者と同じ物語の異なる役割を担った。州民主党は住所疑惑やデータセンター献金といった腐敗の素材を先行して供給し、タラリコが物語として完成させた。データセンター争点は共和党内から生まれた争点でありながら、州民主党が主導して攻撃材料化し (州民主党の投稿では s110 だけが突出した閲覧を得た)、タラリコは終盤の広告でそれに乗った (2.1節)。州共和党の発信は動員コンテンツが中心で物語をほとんど語らず、数少ない例外がキリスト教の言説 (s86) である。

そして2.2節の「論点の断面」で見たとおり、語る資格を争う型は宗教やデータセンターのような個別の論点にも現れた。タラリコの聖句の引用には教義の反論より「偽クリスチャン」の断罪が、パクストンのデータセンター政策には政策の反論より「選挙前の転向」の冷笑が返る。この選挙戦の X空間では、**何を語るかの競争が、語る資格があるかの争いに置き換わっていた。**

手法③の公開情報調査によれば、この真正性攻撃は X の外で組織的に供給されている。共和側の信仰攻撃は5月末の本選最初の広告に始まり、9月8日にはAIで再構成した攻撃広告が全国に流れた (2.1節)。10月中旬には27人の

信仰指導者による支持組織「Pastors for Paxton」が祈祷会とバスツアーで終盤の動員に入り、支持牧師の一人はタラリコを「反キリストの霊の影響下にある」と評した (Dallas Morning News 10月16日、Houston Chronicle)。

2.2節で見た草の根の偽預言者攻撃と同型の言語が、エリートの言説でも使われている。もっとも層別の世論調査を見るかぎり、この攻撃は白人福音派の結集 (8月時点でパクストン支持78%、Fox News 調査) には働いた一方、中間層・無党派ではタラリコ優位が崩れておらず、支持基盤を固める以上の効果は確認されていない。

**第三の発見 (観測の先行): 言説の観測は主要な評価機関の判断に約2ヶ月先行した**

第一と第二で述べたように、発信と反応を質・量・推移の三面から突き合わせる観測は、世論調査などの従来の情報源には現れない結果を見いだした。そしてこの観測は、選挙専門家の判断より早く動いていた。X上の言説の転換 (6月) は、主要な評価機関によるレース評価の「互角」化 (8月末)、外部支出 (3.2節) の本格化 (8月末)、予測市場の反転 (8月下旬〜10月)、大型メディア露出 (8月以降) という制度的・市場的な指標より約2ヶ月早く現れた。

なお、世論調査の一部は年初から接戦の可能性を示しており (3.1節)、この観測の価値は接戦をいち早く言い当てることにあるのではなく、転換の時期と中身 (なぜ・どのように動いたか) を特定できたことにある。個々の指標との詳細な突き合わせと、「6月の転換は何だったのか」をめぐる対立仮説の検討は、3.5節で行う。

## 3. OSINT分析 — Xの外の指標はいつ動いたか

ここまでの観測はすべて X 上のデータに基づく。では、X の外にある公開指標はいつ動いたのか。本章では、2章で観測した6月の転換を基準点として、手法③の Sakana Marlin による独立調査で、世論調査・レース評価・選挙資金と広告・予測市場と報道・討論会という5系統の指標の転換時期を突き合わせる (先行・遅行の整理は表3、全体の時間配置は図14参照)。いずれも公開情報に基づき、本文中の具体的な数字には媒体名・時点を括弧書きで付す。あわせて、X上の15論点分類が実際の選挙争点を取りこぼしていないかの検証 (3.4節) と、時系列の総括 (3.6節) を行う。

### 3.1 世論調査とレース評価: 接戦は年初から、評価の更新は8月から

**世論調査は、SNSより早く接戦を示していた。**しかも接戦は8月に始まったものではなく、候補者が確定する前から構造的である。1月の Emerson 調査 (1月10〜12日、投票する可能性の高い有権者1,165名) は 46% 対 46% の同点、同月のヒューストン大学調査 (1月20〜31日) はパクストン 2ポイント優位で、年初からすでに互角の構図が出ていた。4月には Texas Public Opinion Research (TPOR、民主党系ストラテジストが主宰する調査団体) がタラリコ5ポイントのリード、テキサス大学の Texas Politics Project 調査が8ポイントのリードを示した。

ただし4月のテキサス大学調査は登録有権者ベースで、投票の可能性で絞り込む調査より民主党側に数字が出やすいという方法論上の注意が付く。6月には4調査のうち3調査が同点圏に並んだ (Texas A&M ブッシュスクール/ReconMR/Siena の Texas Poll と NYT (ニューヨーク・タイムズ)/Siena が同点、UT/YouGov が1ポイント差)。7月以降はタラリコ優位が定着し、9月中旬から10月中旬の調査平均 (RealClearPolitics) ではタラリコ 48.1% 対パクストン 45.8% である。

つまり、SNS上の転換 (6月) は世論調査より早かったわけではない (なお、この「追いついた」という整理は転換後の位置づけであり、世論調査が転換を引き起こしたという因果の主張ではない。この点は3.5節で検討する)。順序はむしろ逆で、世論調査がすでに接戦を示していた3〜5月に、X上ではパクストンを支持する反応が多数を占めていた。

これは、決選投票を控えたパクストンのリプライ欄が、党内の支持層による応援投稿で埋まっていたためである。選挙戦前半のX空間は党内動員によって実勢よりパクストン有利に見えており、6月の転換は、X上の見られ方が世論調査の示す接戦に追いついた現象だったと整理できる。個々の調査17本の推移を図13に示す。

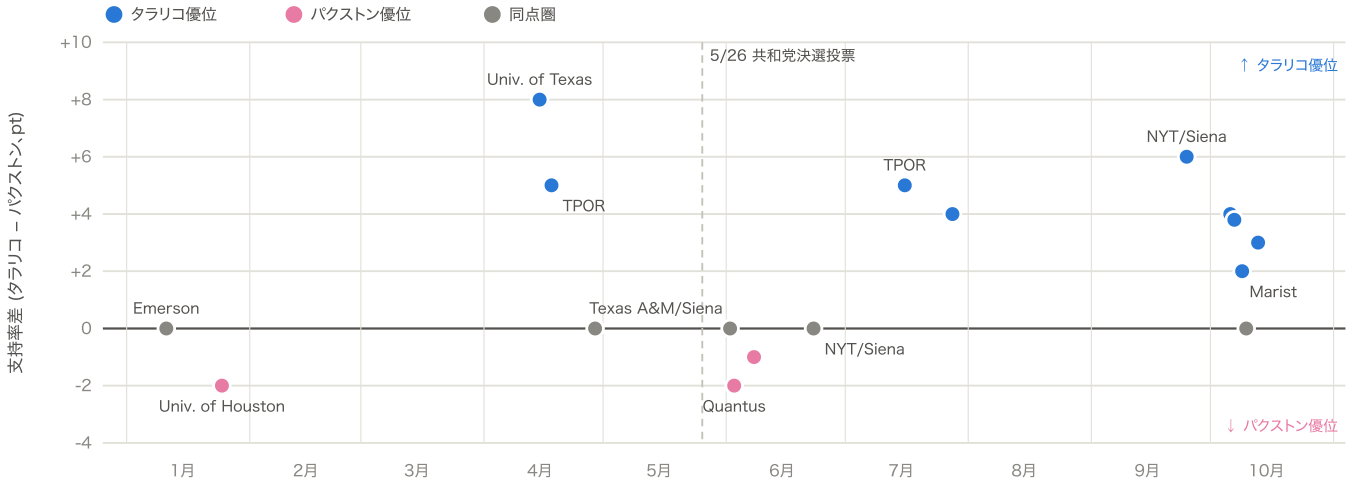



図13: 本選 (タラリコ対パクストン) の主要世論調査17本の推移 (各調査の公表値)。縦軸は支持率差 (タラリコ − パクストン、ポイント)、横軸は実施期間の中点。図中の機関名は、Texas A&M/Siena を含めいずれも大学・報道機関等による世論調査である。

一方、総合的なレース評価の側は、更新の速度が機関によって割れた。Cook Political Report は 8月20日、Sabato's Crystal Ball は8月26日に「互角 (Toss Up)」へ変更し、Decision Desk HQ (選挙予測機関) と RealClearPolitics も同評価を取る。一方、Inside Elections (同じく選挙予測機関) は10月時点でも「共和党やや優位 (Lean Republican)」を維持している。年初から接戦を示す個々の調査が存在したにもかかわらず、評価の転換は早い機関でも8月下旬だった。同じ公開情報を見る専門機関のあいだでも、更新には数ヶ月単位の幅があった。

### 3.2 資金・支出・広告: 2.4倍の広告量でもタラリコ優位は裏返っていない

選挙資金は、集計の層を区別しないと読み誤る。以下では、(1) 候補者委員会の資金 (候補者本人が調達・支出する資金)、(2) 外部支出 (候補者と法的に独立した政治資金団体などによる支出)、(3) 放映された広告への支出 (集計主体が別で、上の2層とは重ならない切り口) の3層を分けて記す。報道によって数字が大きく食い違うのは、主にこの層の違いによる。

候補者委員会の資金では、タラリコが一貫して圧倒した。6月30日時点の連邦選挙委員会 (FEC) 報告で、手元資金には約12倍の開きがあり、第3四半期にはタラリコが四半期として記録的な額を調達した (数値は表2)。質的な構造も対照的で、タラリコの第3四半期の寄付は件数の97%が100ドル以下の小口で (陣営発表。CNBC・CBS、10月15日)、州内比率は明細のある寄付の約55%にとどまって支援基盤が全国化しているのに対し、パクストンは約83%が州内からの調達である (Texas Tribune、7月20日)。

候補者と独立に動く外部支出は、3つの段階を踏んだ。7月までの外部支出は共和党予備選に由来するものが過半で (累計約6,370万ドルのうち約3,540万ドルは党内対立候補コーニンの支援)、本選型の支出はまだ小さかった。8月28日に保守系の大型政治資金団体 Texas PAC が FEC に登録すると局面が変わり、9月21日から10月5日までの約2週間でレース全体の外部支出は2倍超に膨らんだ。10月14日時点の候補者別ではパクストン支援が約1.465億ドル、タラリコ支援は約1,410万ドルである (政治資金の公開データベース OpenSecrets)。資金・支出・広告の主要な動きを表2に示す。

| 時点 | 項目 | 数値 |
|---|---|---|
| 6月30日 | 候補者委員会の手元資金 (FEC 第2四半期報告) | タラリコ 約2,155万ドル / パクストン 約176万ドル |
| 7月20日 | 調達累計 (報道集計) | タラリコ 約7,200万ドル / パクストン 約1,680万ドル |
| 8月28日 | 保守系政治資金団体 Texas PAC が連邦選挙委員会に登録 | 以後、全米有数の外部支出団体に |
| 10月5日 | パクストン第3四半期調達 | 約1,800万ドル (16万超のユニーク献金者) |
| 10月12日 | レース全体の外部支出 (OpenSecrets 集計) | 約2.87億ドル (うち保守側 約2.53億ドル) |
| 10月15日 | タラリコ第3四半期調達・累計 | 四半期 約6,400万ドル / 累計 約1.34億ドル (寄付件数の97%が100ドル以下、陣営発表) |
| 10月16日 | 広告総額 (報道) | 5億ドル超 (放映済みと予約分、予備選〜本選の合算。AdImpact 集計) |

表2: 選挙資金・外部支出・広告の主要な動き (FEC 報告ほか公開情報、金額は概数)。

広告では、構図がさらに際立つ。陣営別の放映済み広告支出はパクストン側約2.3億ドルに対しタラリコ側約9,430万ドルで、2.4対1の開きがある (広告支出の調査会社 AdImpact)。広告量で2.4倍の優位に立ちながら、世論調査の平均でもX上の言説でもタラリコ優位は裏返っていない。この対比は、2章で見た「10月の反応量再反転の中身は批判の殺到だった」という観測とも整合する。

なおパクストン陣営本体の広告購入は9月中旬まで約46.5万ドルにとどまり、広告戦のほぼすべてを外部資金 (保守系の政治資金団体による約9,850万ドルなど) に依存する極端な構造である。スペイン語広告にも差があり、タラリコ本体が約140万ドルを投じたのに対しパクストン本体は約3.5万ドルで、9月後半に Texas PAC が約130万ドルを投じて補った。

時系列の面では、X上の批判急増 (6月) は、外部支出と広告の急拡大 (8月末以降) より2ヶ月以上早い。「広告がSNSの転換を駆動した」という説明は、この順序と合わない。**候補者本人の資金では小口献金 (件数の97%が100ドル以下) を基盤とするタラリコが圧倒し、外部支出では保守側が圧倒する**という資金構造の違いが、終盤の広告戦と10月のX上の動員再活性 (2.2節) の背景にある。

### 3.3 予測市場・メディア露出・討論会: 遅れて動いた指標

予測市場とは、選挙などの出来事の結果に金銭を賭ける市場で、取引価格が参加者の見立てる確率を示す。その予測市場がタラリコ優位をはっきり織り込んだのは10月である。10月初めの時点でタラリコ勝利の確率は Kalshi で66%、10月15日時点で62%、Polymarket では68%から63〜65%で推移した (Kalshi と Polymarket はいずれも予測市場サービス)。優位への反転がいつ起きたかについては、オッズの履歴データを公開情報から確認できず、報道の言及から 8月下旬〜9月と推定するにとどまる (この時期の特定は確度の低い推定である)。

報道側の時系列は、タラリコの全国露出が3つの段階を踏んだことを示す。第一段 (2〜5月) は萌芽で、深夜番組 Colbert への出演が放送の機会均等 (equal time) 規定の問題から YouTube 公開となった件や、3月4日の Reuters による全国向け紹介記事がある。第二段 (6月) は争点化で、共和党側が文化戦争の枠組みでタラリコ攻撃

を本格化させた。X上の転換と同じ月である。第三段 (8〜10月) は大型露出で、NPR (米公共ラジオ) の信仰特集、Kimmel (米の深夜番組) 出演、NYT Magazine の特集、10月14日の CNN タウンホールが続いた。

基礎的な注目の立ち上がりはSNSの転換に先行し、象徴的な大型露出は遅行する。報道とSNSの関係は、この二層に分解して読む必要がある。なお、パクストンの倫理問題の個々の要素は予備選段階から報じられていたが、本選の主要争点として体系的に再整理されたのは6月22日のテキサス州主要紙の特集であり、X上の転換と同時期だった。

**討論会の不成立も、終盤の構図を特徴づける。**経緯を追うと、7月16日にパクストン陣営は「当然討論する」と表明し、7月29日には3つの討論会日程が公表されたが、パクストンは参加を確約しなかった。8月24日以降は陣営間の調整が停滞し、早期投票開始の2週間前にあたる10月7日になっても受諾はなく、このまま不成立となれば2000年以来、約四半世紀ぶりに討論会のない上院選になると報じられた (Texas Tribune 2026年10月7日)。

タラリコは4局の討論招待をすべて受諾しており、直接対決の不在は、タラリコに単独の全国露出の機会 (10月14日の CNN タウンホール単独出演など) を与える一方、「討論から逃げている」という批判の物語をパクストン宛のリプライ欄に供給した。交渉が止まった時期 (8月24日〜) は、レース評価が「互角」へ動いた時期 (8月20〜26日) と重なる。パクストンの守勢は、複数の独立した指標に同時に現れていた。

### 3.4 争点の検証: Xの15論点は実際の争点を取りこぼしていないか

SNSの言説分析には、「X上で見える争点が、実際の選挙の争点とずれていないか」という検証が要る。報道・両候補の政策ページ・世論調査・広告・支持団体の発信という外部情報から主要争点を独立に抽出すると、中心的な争点は生活費、移民・国境、汚職・倫理、医療、トランプ・全国政党対立の5つ、二次的な争点は宗教・文化、民主主義、中絶、教育、エネルギー・データセンター、治安、住宅、経歴・人格の8つ、周辺的な争点が2つとなる。本レポートの15論点分類 (Appendix C) はこれらを概ねカバーしており、専用の分類を持たないのは中絶と宗教・文化の2つだった。15分類が選挙戦の主要な対立軸を取りこぼしている形跡は確認されなかった。

世論調査が測る争点の重要度も、この構図と整合する。4月の TPOR 調査では生活費 (affordability) を最重要に挙げる有権者が21%、7月の Fox 調査ではインフレ・物価高が37%で首位だった。9月の Emerson 調査では経済28%・民主主義17%に加えて住宅が8%で初めて単独の5位に入り、10月のテキサス大学 Texas Politics Project 調査 (自由回答) では生活費21%に次いで汚職が8%に浮上した。生活費が一貫して首位にあり、汚職が終盤に顕在化するという推移は、2章で見た言説空間の動きと符合する。

2.1節で触れた住宅争点の位置づけは、外部情報からは次のように整理できる。州全体では独立した主争点ではないが、生活費の下位論点として厚みがあり、ラティーノ系 (重要争点の上位3つの合算で31%)・賃貸層・若年層では相対的に可視化される二次的争点である。両候補とも具体的な住宅政策は持っており (タラリコは法人による住宅の買い占め禁止と低所得者向け住宅税額控除 (LIHTC) の拡大、パクストンは初回購入者への5万ドル控除)、住宅争点が見えにくいのは、広告の主要フレームに昇格していないためである。

データセンター争点も外部情報で検証した。州の世論は建設への反対が一貫して過半 (6月〜10月のテキサス大学 Texas Politics Project 調査で反対56〜58%、共和党支持層の内部でも45対43で拮抗) である。州政府も対応を重ねており、アボット知事は6月に電力規制当局へ事業者負担と家庭料金保護を求める書簡を送り、8月には新規

承認を監査完了まで停止した。10月の争点別信頼度ではデータセンター問題でタラリコ38% 対パクストン35%、政治腐敗では41%対31%と、この論点は民主側に傾いている (同 Texas Politics Project 10月調査)。

ただし投票行動は別である。データセンター建設への反対が最も強い農村部 (反対62%) は、同時にパクストンの最も強い支持基盤 (支持65〜67%、ヒューストン大学 Hobby School 10月調査) であり、**争点で負けることと票を失うことは同じではない。**X上でパクストン宛の冷笑が多数を占めるという2.2節の観測を票読みに直結させてはならない理由が、ここにある。

なお腐敗フレームの照準にも偏りがある。報道ベースでは、データセンター関連の献金はパクストンの約44.8万ドルに対し、規制対応を主導したアボット知事が約900万ドルと20倍の規模だが (Texas Tribune 10月19日)、X上の攻撃はほぼパクストンだけに向かった。言説の攻撃対象は、金額の大小ではなく選挙の対立構図で決まっている。

最後に、X上の言説と世論調査の争点構成を突き合わせる際の注意を3点記す。第一に、推薦団体 (NRA、HRC、Planned Parenthood など) の組織的な発信は、銃・LGBTQ・中絶といった争点をX上で世論調査より過大に見せうる。第二に、広告で増幅された争点はXでも反復拡散されやすく、X上の言説量は広告投下の影を含む。第三に、世論調査で「生活費」に一括される住宅・医療費・エネルギーは、X投稿では別々の話題として現れる。いずれも、X上の争点構成をそのまま世論の争点構成として読まないための注意であり、4章で述べる本手法の限界にも通じる。

### 3.5 SNS観測との照合: 何が先行し、何が遅行したか

以上を時間軸で整理する。2.3節の第三の発見で述べたとおり、**X上の言説の転換 (6月) は、主要な評価機関によるレース評価の「互角」化 (8月末)、外部支出の本格化 (8月末)、予測市場の反転 (8月下旬〜10月)、大型メディア露出 (8月以降) という制度的・市場的な指標より約2ヶ月早く現れた。**一方、世論調査の一部 (4月の TPOR・テキサス大学調査) には先行されている。したがってSNS観測の位置づけは、「世論調査の一部とは同時ないしやや遅行し、制度的・市場的な指標には明確に先行する」である (表3・図14)。

| 指標 | 主な転換点 | SNSの転換 (6月) との関係 |
|---|---|---|
| 世論調査 (個々の調査) | 1月に同点、4月にタラリコ優位、6月に同点圏多数 | 先行〜同時 |
| 共和党決選投票 | 5月19日前後トランプ支持表明、5月26日パクストン勝利 | 直前 (トリガー) |
| 報道 (スキャンダル再集約) | 6月22日に本選文脈で特集 | 同時 |
| 主要な評価機関 (レース評価) | 8月20日 Cook、8月26日 Sabato が「互角」へ | 約2ヶ月遅行 |
| 外部資金・広告 | 8月28日 Texas PAC 登録、9〜10月に広告急拡大 | 2〜4ヶ月遅行 |
| 予測市場 | 10月中旬にタラリコ 62〜65% (反転時期は推定) | 約2〜4ヶ月遅行 (推定) |
| 討論会 | 8月下旬交渉停滞、10月上旬不成立が濃厚に | 遅行 (結果側) |

表3: 各OSINT指標の転換時期とSNSの転換との時間関係 (公開情報に基づく)。

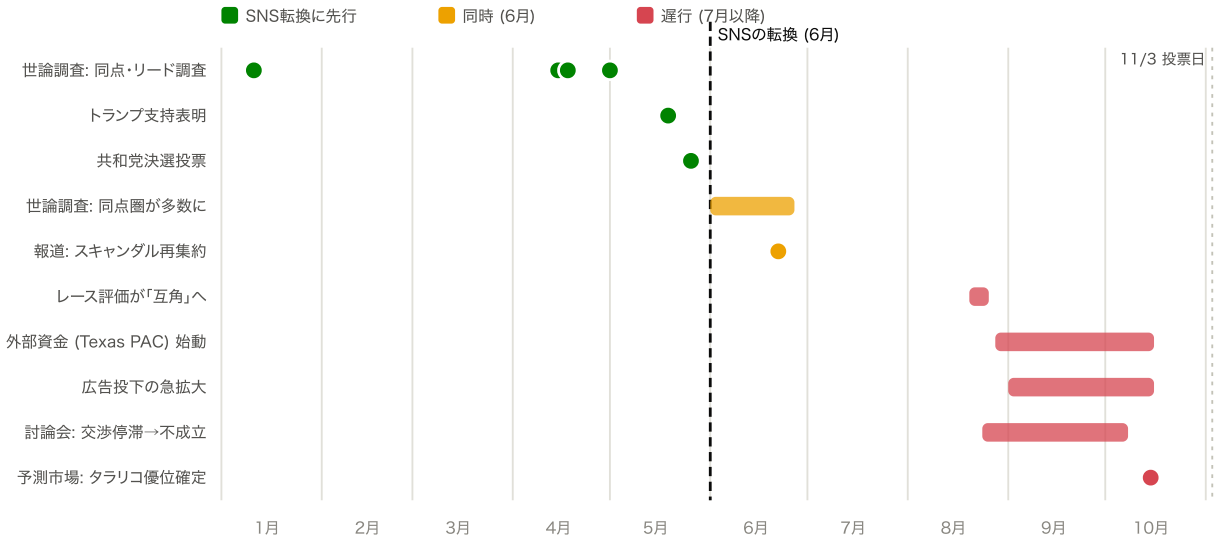



図14: OSINT指標の転換時期の時間配置。

最後に、この突き合わせを使って「6月の転換は何だったのか」について考えられる対立仮説を検討する。第一の仮説は**「SNSは世論調査の後追いにすぎない」**というものである。4月の一部調査はタラリコのリードを示していたが、同時期には同点や逆方向の調査も並存しており (図13)、調査が一方向に揃っていたわけではない。またX上の批判率は3月の 19.5% から5月の 33.9% まで緩やかに上昇した後、6月に 54.8% へ不連続に跳ね上がっており、4月の調査がこの段差を説明するには時間の形が合わない (調査が原因なら5月に動きが現れるはずである)。段差の直前にあるのは 5月26日の候補者確定という明確な構造イベントであり、説明力はこちらが高い。

第二の仮説は**「タラリコの資金力・広告が転換を駆動した」**というものである。しかし資金格差が公に可視化されたのは7月の報道以降、外部支出の本格化は8月末以降、大規模な広告投下は9月以降であり (表2)、6月の転換時点では本選型の広告戦はまだ始まっていない。資金は転換の原因ではなく、顕在化した脆弱性を増幅した「結果側」の要因である。第三の仮説は**「SNS上の変化はX固有の現象で、実態を反映していない」**というものである。これは、世論調査の優位定着 (7月以降)、レーティング (8月)、予測市場 (10月) という転換後のすべての公開指標が同じ方向へ収束した事実と矛盾する。

以上から、本分析の中心的な読み、すなわち**「候補者確定を引き金とする6月の言説の転換は実勢を反映しており、制度的・市場的な指標に約2ヶ月先行した」**という整理が、対立仮説のいずれよりも観測事実と整合すると結論できる。なお、6月に言説の構成が不連続に変わったこと自体は決選投票という選挙日程からある程度必然的に生じる現象であり、それが本選の実勢まで反映していたかどうかは、ここまでの外部指標との整合に加え、最終的には開票結果で確かめられるべき読みである。

### 3.6 結論: 時系列で振り返る

分析結果を時間の流れに沿って通して読むと、次のようになる。3月の時点で、世論調査に基づく下馬評は「共和党優位」だった (一方、個々の世論調査には年初から同点を示すものもあった)。X上ではパクストン宛の反応は支持が批判を大きく上回り、好意的だった。注目の中心は共和党の候補者指名争いであり、パクストンは5月の決選投票へ向けて発信を積み増し (2.1節)、リプライ欄は支持層を結集させる動員の物語で占められていた。ただしその間も、性犯罪

者への司法取引優遇や賄賂といったスキャンダルの物語は再生産され続け、批判率は3月から5月にかけて月を追って高まっていた (2.2節)。

5月26日、パクストンは決選投票を制して共和党候補の座を確定させた。ここで言説の構成が切り替わる (3.5節で検討したとおり、転換のトリガーである)。「党内の敵」が消えたことで動員の物語は役割を終えて退潮し、批判率は6月に跳ね上がった (2.2節)。同じ月、反応量の首位もタラリコ宛へ移る。本選が始まると、タラリコは発信を倍増させてパクストンの倫理問題への攻撃を集中させ、感情に訴える全国争点で閲覧数の上位をほぼ独占した。パクストンは発信を減らし経済や医療へ論点を移したが、スキャンダルの物語はすでに論点を選ばぬ「人物評価」として定着しており、ほぼすべての論点で批判率は下がらなかった。9月、反応量は月単位の最大に達したが、批判と支持の構成はもはや6月の水準のまま動かない。

8月下旬、Cook Political Report (8月20日) と Sabato's Crystal Ball (8月26日) が相次いで評価を「互角」へ変更した。定評ある選挙予測の評価が動いたのは8月だが、X上の転換はその約2ヶ月前、6月にすでに観測されていた。SNSの反応は有権者世論そのものではなく、3.1節で見たとおり世論調査の一部はより早くから接戦を示していたため、SNSがすべてに先行したわけではない。

一方、「どの言説がいつ入れ替わり、なぜ見られ方が変わったのか」という変化の中身まで捉えたのは言説の観測であり、制度的な選挙評価に対しては明確に先行した。そして10月前半、パクストン宛の反応量がタラリコ宛を再び上回り、動員型の言説も再増勢に転じた (件数ベースであり、反応全体に占める比率では決選前の水準に戻っていない。2.2節)。投票日までの最終盤も、反応の量と中身は動き続けている。

## 4. 評価 — この分析から何が言えるか

本レポートは、X上の公開データをAIで大規模に読み解くことで、選挙戦の構図の変化を「中身」(語られる物語の交代) と「量」(支持・批判の比率の推移) の両面から、時期を特定して捉えられることを示した。約39万件の層化抽出による反応分類は統計的な誤差評価が可能であり (ただし母集団はリプライを書いた人々であり、有権者全体ではない。10月分の約15.7万件は全件分類のため抽出誤差がない)、ナラティブ抽出は変化の理由についての仮説 (なぜ6月だったのか、なぜパクストン側だけが崩れたのか) を、検証可能な形で与える。

これら複数の分析を重ね合わせることで、単独の手法では得られない読みが可能になる。感情分類だけでは「6月に批判が急増した」ことしか分からず、ナラティブだけでは変化の規模を測れない。両者を重ねて初めて、「決選投票の終了が動員言説を退潮させ、持続していたスキャンダル言説が前面化した」という因果の見立てが、数字の裏付けとともに描ける。また、閲覧数や件数といった露出の指標だけでは、選挙と無関係な一過性のバズと情勢を動かす言説を区別できないことも2.2節で示した。言説を物語の単位で取り出し、担い手の数で測ることの意義は、この区別ができる点にある。

このことは、SNS言説のAI分析が、世論調査を代替するのではなく補完する、新しい情勢把握の層になり得ることを示している。世論調査が「結果としての支持」を断続的に測るのに対し、この手法は「支持が形成・破壊される過程」を月次以下の細かさで連続的に観測する。本件では、その観測が定評ある選挙予測機関の評価変更 (8月下旬の「互角」化) に約2ヶ月先行した (世論調査には先行していない。3.1節参照)。より重要なのは、評価変更や調査数値では見えない「なぜ変わったのか」の中身を与えたことである。

選挙に限らず、政策・企業・安全保障上のテーマについて「いつ・何をきっかけに・どんな物語によって評判が転換したか」を早期に検知する用途へ、同じ枠組みがそのまま適用できる。同時に、1.5節で述べた限界 (リプライ欄は世論の縮図ではないこと、組織的発信の除去を行っていないこと) は常に数字と併記されるべきであり、本手法の出力は意思決定の材料となる「観測」であって「予測」ではない点は強調しておきたい。

本レポートの方法論上の新しさは、この「観測」を三重に検証した点にもある。第一に、投稿群からのナラティブの読み取りが妥当か (解釈の検証) を、複数の異なるAIモデルの合議で確かめた (1.2節)。第二に、その物語が実際の投稿として存在するか (事実の検証) を、逐語引用と原文との全数照合で確かめた (同節)。そして第三に、SNSの外側の5系統の公開指標を独立に調査して時間関係を検証し、「6月の転換は実勢を反映し、制度的指標に先行した」という中心的な結論が SNSデータの内と外の両方から支持されることを確認した (3章)。

AIによる大規模分析は「もっともらしいが検証できない要約」に陥りやすいという批判があるが、本レポートは解釈の検証・原文との照合・外部指標との突合という三層を通過した観測のみで構成している。この検証可能性が、インテリジェンス業務にAIを用いる際の最低条件だと私たちは考えている。

この「2ヶ月」という先行は、実務の時間感覚に置き換えると小さくない。情勢分析の現場では、主要な評価機関の格付け変更や世論調査の節目を待ってから対応を検討したのでは間に合わない場面が多い。言説空間の転換をリアルタ

イムに近い細かさで検知できれば、その2ヶ月は、追加観測の設計、仮説の検証、関係者への注意喚起に使える時間になる。

報道の現場にとっては、「どの物語が効いているのか」という言説側の裏付けは、現地取材で確かめるべき仮説のリストとして機能する。そして研究の観点では、動員の言説とスキャンダルの言説が交代する過程を数十万件の規模で定量観測した本件のデータは、政治コミュニケーション研究の素材としての価値を持つ。読者それぞれの持ち場で、この観測を「次に何を見るべきか」に変換していただけるなら、本レポートの目的は果たされたことになる。

もう一つ、本レポートの作り方そのものについて述べておきたい。生成AIを分析業務に使うことへの最大の懸念は、「もっともらしいが、誰も検証していない文章」が量産されることである。本レポートが採った設計は、不備が一つでも残れば掲載しない (fail-closed)、掲載するものは機械的に原文へ遡って全数検査する、結論は独立した外部情報と突き合わせる、というものであり、この懸念に正面から応えている。人間が全出力を目視できない規模でAIを使うのであれば、品質の担保は人の注意力ではなく仕組みに埋め込むしかない。この設計はSNS分析に限らず、AIが文章や分析を生成するあらゆる業務に移植可能であり、本レポート自体がそのひな型として機能することを意図している。

最後に、本ケーススタディの位置づけを述べておきたい。テキサス州上院選を対象に選んだのは、30年ぶりの接戦という異変が起きていた場所であり、SNS言説の分析が最も有効に働く「構図が動く瞬間」を含んでいたからである。ここで示した、額面の数字を誰が・なぜ書いたかまで遡って読むという読み方は、特定の選挙に限らず、世論が形成され動く場面の全般に適用できる。その適用範囲については次章で述べる。

## 5. 今後の方向性 — 選挙分析から情勢分析全般へ

Sakana AI はこれまでも、安全保障・国際情勢の領域でSNS言説のAI分析に取り組んできた。中曽根平和研究所での研究発表 (https://npi.or.jp/research/2026/01/06125815.html) や、報道機関と連携したナラティブ分析の取り組み (https://sakana.ai/narrative-intelligence/) がその例である。本件はその枠組みを米国の選挙情勢へ適用した最初の事例であり、数十万件規模の反応から「支持の構成比」と「言説の中身」を同時に推定するパイプラインが、選挙という動きの速い対象でも機能することを確認した。

SNSの分析自体は、新しい分野ではない。しかし広く行われているのは、キーワードの件数を数える、投稿の感情を肯定・否定に分類する、といった表層の集計であり、本レポートが示したような「誰が・何をして・どう評価されるかという物語の単位で言説を取り出し、そのすべてを原文に遡って検証する」分析は、筆者らの知る限り、商用のSNS分析ではほとんど行われていない。国際情勢の分析の現場が必要としているのは、数字の増減ではなく「何が語られ、それが情勢をどう動かすのか」であり、ナラティブを検証可能な形で抽出する技術は、その要請に正面から応えるものである。

今後の拡張は四つの軸で考えている。第一は分析対象の拡張である。本件では分析者が観測対象 (候補者と州政党のアカウント) を設計した。しかし Sakana AI の技術では、分析者がテーマを設定すれば、注目すべきキーワードとともに、アカウントも自動で探索する技術はすでに実現している。つまり分析者が「何を分析したいか」を決めれば「何を観測するか」という設計自体をAIに提案させることができる。これは省力化にとどまらない。観測対象を人間の仮説に依存して固定すると、本件の終盤に現れた偽広告の発信源のような、想定していなかったアクターの登場を見逃しうる。対象設計の自動化は、分析の網を「予想できたもの」の外へ広げるための拡張である。

第二は言語の拡張である。本件は英語圏の言説を対象としたが、大規模言語モデルを核とする分析パイプラインは特定の言語に依存しない。日本語を含む非英語圏の言説空間への適用に加え、海外発のナラティブが翻訳されながら国内の言説に移植される過程の追跡は、認知戦の監視においてとりわけ重要になる。

第三はプラットフォームの拡張である。言説の生態系は単一のサービスで完結しておらず、動画プラットフォームや掲示板で生まれた物語がXで増幅される、あるいはその逆という分業が常態化している。観測面を広げることで、言説の「出現の場」と「増幅の場」をつないだ全体像に近づくことができる。

第四はテーマの拡張である。最も直接的には、本件と同型の選挙分析は、テキサス州以外の激戦州や 2028年の米大統領選にそのまま展開できる。さらに、他国による認知戦・影響工作は、その実体が「組織的な担い手による物語の計画的な拡散」である以上、本件で観測した動員言説と技術的には同じ方法で検出できる。誰が、どんな物語を、どの場で、どれだけの独立した担い手とともに広げているか。この問いに答える仕組みは、選挙にも、偽情報対策にも、政策への世論反応の把握にも、企業・組織の評判分析にも、そのまま適用できる。

最後に、本レポートの主張がこの先どう確かめられるかを述べておく。本レポートが示したのは、世論調査では見えない「なぜ動いたのか」「どのように動いたのか」の発見であり、言説の転換を主要な評価機関の判断より早く、変化の中身とともに捉えたという、質とスピードの両面で異なる分析である。これまでの推移からはタラリコがわずかに優勢と

読めるが、本レポートは勝敗を予測しない。観測した言説の転換が実勢をどの程度映していたかは、2026年11月3日の開票結果とその後の情勢によって検証できる。

私たちは観測と検証の過程を開示したうえで、結果がどちらに転んでもそれを受け止め、手法の改善につなげていく。予測を当てることよりも、検証に耐える観測を積み重ねることが、AIを用いた情勢分析への信頼につながると考えている。

---

**監修・執筆**: 石井順也・沢田恭兵

本レポートは、Sakana AI の分析システムが実施した分析と生成したドラフトを基に、インテリジェンスの専門家とエンジニアが内容の検証・監修を行って作成した。

# Appendix

A. 発信ナラティブ一覧 (69本)

B. 反応ナラティブ一覧 (49本)

C. 論点別の元投稿数と反応構成 (15論点 × 2候補)

# Appendix A: 発信ナラティブ一覧 (69本)

列の定義は1.2節を参照。ID は発信と反応で別々に振られており、同じ番号でも別のナラティブである。支持・独立投稿者は、収集した全反応70.6万件に対する測定で、その物語を自分の主張として語り直した一般ユーザーの規模を示す (発信アカウント自身の投稿は数えない)。最終列は、同じ物語が反応側 (Appendix B) でも独立のナラティブとして抽出された場合の対応 ID である (対応付けは物語の主体・行為・評価の方向が一致する場合に限る。対応がないことは、一般ユーザーが語り直していないことを意味しない。支持列がその直接の測定である)。

見出しの末尾に ※ を付したものは、AIによる見出しの表現が物語の構造と完全には一致しない疑いを編集チェックが申告したもので、数値の集計には影響しない。

表中の固有名詞を補足する。MAGA はトランプ支持運動のスローガン、DEI は多様性・公平性・包摂性施策を指す。WPATH はトランスジェンダー医療の国際専門家団体、ActBlue は民主党系のオンライン献金サービスである。デルタ8は大麻由来成分、Big Beer・Big Tobacco はビール・たばこ業界大手の通称、Big Ugly Bill は税制・歳出法案の蔑称を指す。ダン・パトリックはテキサス州副知事、Karl Rove は共和党の著名な選挙ストラテジスト、WSJ はウォール・ストリート・ジャーナルを指す。Colony Ridge はヒューストン近郊の住宅開発地 (州が開発業者を提訴した)、Flock は監視カメラ網の企業名、アダム・ホフマンは司法取引の対象となった人物である。

| ID | ナラティブ | 確度 | 支持 | 独立投稿者 | 推定到達 | 初出 | 呼応する反応ナラティブ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **タラリコの発信 (20本)** | | | | | | | |
| s30 | ケン・パクストン氏が児童性犯罪者を社会に戻したとする、関連資料公開要求の言説 | 確立 | 10,485 | 5,291 | 1,477,393 | 2026-06-19 | s150・s275 ほか2本 |
| s25 | ケン・パクストン氏が富裕な弁護士の友人の介入で性犯罪者を釈放したとする言説 | 確立 | 3,276 | 2,045 | 723,387 | 2026-05-27 | s150・s275 ほか2本 |
| s75 | 政治家への支払い能力が経済制度の恩恵を左右するとする批判的言説 | 確立 | 1,480 | 1,059 | 367,549 | 2026-09-05 | s545 |
| s35 | 寄付者からの賄賂がケン・パクストン氏の弾劾を招いたとする言説 | 確立 | 1,344 | 912 | 876,555 | 2026-06-30 | s561・s139 |
| s37 | ケン・パクストンがアダム・ホフマン氏を擁護したとする言説 | 確立 | 646 | 417 | 1,266,808 | 2026-07-10 | s150・s275 ほか2本 |
| s15 | イランの新たな戦争がガソリン高騰を招くとし税停止を求める言説 | 確立 | 233 | 155 | 751,506 | 2026-04-30 | — |
| s26 | 自分の友人を欺いた人物は上院でもあなたを裏切るとする言説 | 確立 | 181 | 145 | 284,386 | 2026-06-02 | — |
| s51 | 上位1%が高コスト化でアメリカンドリームを遠ざけたとする言説 | 確立 | 137 | 116 | 146,693 | 2026-08-06 | — |
| s39 | ビッグベンドの国境壁は安全を高めず業者を潤す腐敗の象徴とする言説 | 拡散先行 | 97 | 77 | 212,796 | 2026-07-13 | — |
| s53 | Big BeerとBig Tobaccoが利益のためデルタ8禁止を働きかけたとする言説 | 拡散先行 | 78 | 63 | 604,853 | 2026-08-07 | s462 |

| ID | ナラティブ | 確度 | 支持 | 独立投稿者 | 推定到達 | 初出 | 呼応する反応ナラティブ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| s28 | ダン・パトリック氏が弱者を犠牲に寄付者を富ませたとする言説 | 拡散先行 | 53 | 49 | 705,037 | 2026-06-13 | — |
| s58 | アマゾン倉庫作業員の死亡を企業の強欲による犠牲とする言説 | 拡散先行 | 43 | 41 | 1,169,160 | 2026-08-23 | — |
| s4 | 億万長者を除き、ほぼ全米国民が増税になるとする税制批判の言説 | 拡散先行 | 27 | 27 | 315,836 | 2026-04-15 | s545 |
| s68 | テキサス州のFlockカメラが行動の詳細な地図を作るとする言説 | 拡散先行 | 32 | 26 | 205,093 | 2026-09-01 | — |
| s41 | DCの政治家がアルパインの水利用問題を招いたとする言説 | 拡散先行 | 8 | 9 | 128,453 | 2026-07-18 | — |
| s48 | 「Big Ugly Bill」が子どもを飢えさせ富裕層を減税するとする言説 | 拡散先行 | 10 | 8 | 89,638 | 2026-07-31 | — |
| s44 | イランの攻撃で死亡したとされる兵士の死をめぐる戦争批判の言説 | 拡散先行 | 6 | 7 | 114,623 | 2026-07-22 | — |
| s36 | ケン・パクストン氏の投票時住所をめぐる疑惑と法の平等適用を求める言説 | フレーミング | 539 | 363 | 6,170,975 | 2026-07-07 | — |
| s62 | ICEが5歳児を拘束し、幼稚園ではなく収容所に置いたとする言説 | フレーミング | 154 | 145 | 3,176,481 | 2026-08-27 | — |
| s9 | イランで戦争を始めた人々と国民の負担を対比し、燃料税停止を求める言説 | フレーミング | 54 | 54 | 393,691 | 2026-04-22 | — |
| **パクストンの発信 (36本)** | | | | | | | |
| s81 | ジェームズ・タラリコが有権者に立場を偽っているとする言説 | 確立 | 12,424 | 8,396 | 319,392 | 2026-09-09 | — |
| s31 | Talaricoがテキサス州民を欺き州の民主党優位化を目指すとする言説 ※ | 確立 | 6,461 | 4,715 | 60,474 | 2026-06-23 | — |
| s56 | ケン・パクストンを戦いに送り出すべきだとする勝利の言説 | 確立 | 6,632 | 4,468 | 959,591 | 2026-08-18 | s688・s144 |
| s70 | James Talaricoを経済破壊を目指す急進的社会主義者とみなす言説 | 確立 | 3,637 | 2,598 | 56,403 | 2026-09-01 | — |
| s43 | タラリコ氏の危険な政策がテキサスを無法状態にするとする言説 | 確立 | 2,578 | 1,811 | 831,028 | 2026-07-21 | s612 |
| s21 | 急進的トランスジェンダー運動と子どもの被害への対策成果とする言説 | 確立 | 2,664 | 1,741 | 113,872 | 2026-05-15 | — |
| s27 | テキサス州民には過激すぎる政策ゆえ繰り返し嘘をつくとする言説 | 確立 | 2,211 | 1,692 | 317,961 | 2026-06-10 | s628 |

| ID | ナラティブ | 確度 | 支持 | 独立投稿者 | 推定到達 | 初出 | 呼応する反応ナラティブ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| s64 | トランプ氏の支援で急進派に対抗し、テキサスを米国防衛の最後の砦とする言説 | 確立 | 1,219 | 921 | 143,542 | 2026-08-29 | s330・s347 |
| s114 | ジェームズ・タラリコ氏の政策がテキサス州民を過重課税に追い込むとする言説 | 確立 | 1,148 | 897 | 273,852 | 2026-10-15 | — |
| s99 | タラリコ氏の勝利が増税と生活費上昇を招くとする言説 | 確立 | 1,072 | 840 | 112,567 | 2026-10-01 | — |
| s90 | James Talarico氏が公職を私益と雇用先の利益に利用したとする言説 | 確立 | 987 | 786 | 1,378,679 | 2026-09-17 | — |
| s16 | ActBlueの寄付手続きが不正・外国寄付を許すとする訴訟言説 | 確立 | 456 | 406 | 851,081 | 2026-05-01 | — |
| s33 | ジェームズ・タラリコが警察・刑務所予算削減を唱えたとする言説 | 確立 | 471 | 403 | 55,329 | 2026-06-24 | — |
| s42 | ジェームズ・タラリコが刑務所なき国と犯罪の蔓延を望むとする言説 | 確立 | 402 | 291 | 141,659 | 2026-07-20 | s612 |
| s50 | ワシントンが生活を困難にし、減税でテキサス住民に還元するとする言説 | 確立 | 332 | 285 | 57,787 | 2026-08-05 | — |
| s98 | ジェームズ・タラリコが石油・ガス産業を損なうとする選挙募金言説 | 確立 | 348 | 257 | 125,579 | 2026-09-30 | — |
| s111 | テキサス選出の民主社会主義者が国全体に悪影響を示すとする言説 | 確立 | 269 | 243 | 91,374 | 2026-10-12 | — |
| s67 | James Talarico氏が石油・ガス業界を破壊し州の脅威だとする言説 | 確立 | 253 | 193 | 53,180 | 2026-09-01 | — |
| s32 | タラリコが民主党運営都市の失敗した政策をテキサスに持ち込むとする言説 | 確立 | 202 | 179 | 30,171 | 2026-06-23 | — |
| s45 | 刑務所は家族を守り、急進的な考えは治安を脅かすとする言説 | 確立 | 169 | 143 | 159,931 | 2026-07-23 | s612 |
| s52 | バイデン政権の政策が住宅費高騰を招いたとし、購入支援を訴える言説 | 確立 | 148 | 138 | 28,537 | 2026-08-06 | — |
| s7 | テキサスの教室への十戒掲示を道徳的価値の勝利とする言説 | 拡散先行 | 99 | 95 | 274,790 | 2026-04-21 | — |
| s5 | 大企業に取り込まれたコーニンが化学物質への懸念を攻撃するとする言説 | 拡散先行 | 93 | 91 | 60,963 | 2026-04-16 | — |
| s24 | Discordが初期設定で捕食者を子どもに近づけたとし、ケン・パクストンが勝利を主張する言説 | 拡散先行 | 42 | 36 | 584,856 | 2026-05-22 | s154 |
| s103 | DEI企業から報酬を受けつつ学区にDEI担当者を強いたとする言説 | 拡散先行 | 44 | 31 | 75,186 | 2026-10-05 | — |

| ID | ナラティブ | 確度 | 支持 | 独立投稿者 | 推定到達 | 初出 | 呼応する反応ナラティブ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| s72 | 石油・ガス産業の禁止が物価高と雇用喪失を招くとする言説 | 拡散先行 | 34 | 29 | 67,295 | 2026-09-04 | — |
| s91 | オバマ政権が法の武器化を通じて政府の介入拡大を図ったとする言説 | 拡散先行 | 22 | 21 | 34,696 | 2026-09-17 | — |
| s74 | ジェームズ・タラリコが勤労世帯の税負担を年3,000ドル高めるとする言説 | 拡散先行 | 16 | 17 | 186,469 | 2026-09-05 | — |
| s77 | トランプ大統領の指導力が米国女性の経済的復活を導くとする言説 | 拡散先行 | 10 | 11 | 820,234 | 2026-09-07 | — |
| s2 | ジョン・コーニンの春休みがトランプ大統領の政策課題を停滞させたとする言説 | 拡散先行 | 7 | 8 | 333,494 | 2026-04-07 | — |
| s29 | WPATHが子どもへの有害なジェンダー「移行」処置を推進するとする言説 | 拡散先行 | 7 | 8 | 15,701 | 2026-06-17 | — |
| s10 | 急進左派勢力の攻撃を退け、テキサス州区割りを擁護するとする言説 | 拡散先行 | 4 | 5 | 113,451 | 2026-04-27 | — |
| s88 | テキサス農場への水確保と減税で家計負担を下げるとする言説 | 拡散先行 | 3 | 4 | 71,368 | 2026-09-16 | — |
| s96 | 幼少期の医療不備による目の損傷を医療政策の根拠と位置づける言説 | 拡散先行 | 3 | 4 | 68,651 | 2026-09-28 | — |
| s8 | Karl Roveの指導がWSJを「恥知らずなボロ布」にしたとする言説 | 拡散先行 | 2 | 3 | 32,435 | 2026-04-22 | — |
| s1 | イスラム法をテキサスに導入しようとしたとする調査・法的措置の言説 | フレーミング | 778 | 651 | 687,999 | 2026-04-06 | — |
| **州民主党の発信 (7本)** | | | | | | | |
| s63 | 長年政権を担うテキサス共和党が問題を生んだとする新指導部を求める言説 | 確立 | 1,502 | 1,219 | 39,294 | 2026-08-28 | — |
| s109 | テキサス共和党が富裕層・多国籍企業優先の経済を築いたとする言説 | 確立 | 829 | 557 | 2,474 | 2026-10-12 | — |
| s106 | アボット氏の失政に州民が反発し再選が難航するとする言説 | 確立 | 169 | 159 | 44,179 | 2026-10-07 | — |
| s110 | データセンターが税優遇を受け、パクストンの腐敗を支えるとする言説 | 確立 | 157 | 126 | 459,681 | 2026-10-12 | — |
| s79 | グレッグ・アボットが文化闘争で医療・住宅費高騰から目をそらすとする言説 | 確立 | 159 | 116 | 14,055 | 2026-09-08 | — |
| s47 | 共和党が財政余剰の中でテキサス住民を飢えさせているとする言説 | 拡散先行 | 26 | 23 | 44,751 | 2026-07-29 | — |

| ID | ナラティブ | 確度 | 支持 | 独立投稿者 | 推定到達 | 初出 | 呼応する反応ナラティブ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| s71 | Kalshi側の献金後、パクストン氏が予測市場規制に加わらないとする言説 | 拡散先行 | 3 | 4 | 31,162 | 2026-09-03 | — |
| **州共和党の発信 (6本)** | | | | | | | |
| s86 | 現代のジェンダー観や政治に合わせてキリスト教を書き換えるべきではないとする言説 | 確立 | 3,009 | 2,166 | 2,270 | 2026-09-14 | — |
| s78 | テキサスの国境障壁を守るためパクストンをワシントンへ送るべきだとする言説 | 確立 | 2,832 | 1,849 | 42,220 | 2026-09-08 | — |
| s100 | 有権者登録と投票参加の呼びかけでテキサスを赤く保つとする言説 | 確立 | 2,064 | 1,286 | 1,064 | 2026-10-01 | — |
| s102 | テキサスの牧師とキリスト教徒に有権者登録と投票を促す言説 ※ | 確立 | 725 | 581 | 8,254 | 2026-10-04 | — |
| s84 | 共産主義者とイスラム主義者が民主党を席巻するとする言説 | 確立 | 532 | 342 | 1,391 | 2026-09-10 | — |
| s69 | Paxtonを擁護者、Talaricoを急進的な対立者と位置づけ投票を促す言説 | フレーミング | 11,155 | 6,336 | 103,391 | 2026-09-01 | s168・s330 ほか2本 |

## Appendix B: 反応ナラティブ一覧 (49本)

列の定義は1.2節を参照。「立場」は候補者への親/反のほか、政党宛のナラティブには親/反×政党を、選挙と関係しない話題には「—」を付した(いずれも分析者判定)。見出しの末尾に ※ を付したものは、AIによる見出しの表現が物語の構造と完全には一致しない疑いを編集チェックが申告したもので、数値の集計には影響しない。

言い回しの近い言説が別のナラティブとして分かれて掲載されることがある (例: 偽AI広告に関する2本や、同趣旨の言説が別ナラティブとして並ぶ s804・s806)。なお支持・独立投稿者は、収集した全反応70.6万件を対象に、各ナラティブの見出しが示す中心命題に対して測定した値である (s176 は抽出時の内部命題と見出しに乖離があったため、月次推移の図 (図9) からは除外している)。

また、リプライ欄には選挙と関係のない話題 (衣料品の化学物質に関する消費者問題など) への反応も流れ込み、注目度が高ければ抽出対象に入る。候補者のリプライ欄が、選挙専用の空間ではないことの表れである。

表中の固有名詞を補足する。PFAS は有機フッ素化合物、Kacey Musgraves はテキサス出身の歌手、Bo French は州共和党の郡支部議長である。

| ID | ナラティブ | 確度 | 立場 | 支持 | 独立投稿者 | 推定到達 | アンカー初出 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **タラリコ宛の反応 (13本)** | | | | | | | |
| s330 | ジェームズ・タラリコを米国破壊を狙う急進派として批判する言説 | 確立 | 反タラリコ | 12,512 | 7,741 | 11,834 | 2026-07-16 |
| s513 | 民主党が主権放棄で南部国境からの大量流入を招いたとする言説 | 確立 | 反タラリコ | 3,685 | 2,696 | 9,591 | 2026-08-27 |
| s448 | 共和党が長年統治したテキサスの混乱も自ら招いたとする言説 | 確立 | 反パクストン | 3,571 | 2,409 | 4,784 | 2026-08-12 |
| s524 | 不法移民の親が法律違反を選んだ場合の親子の処遇をめぐる言説 | 確立 | 反タラリコ | 1,591 | 1,518 | 923,535 | 2026-08-27 |
| s559 | 共和党の約30年のテキサス支配が問題を招いたとし、ジェームズ支持を促す言説 | 確立 | 反パクストン | 1,884 | 1,372 | 29,496 | 2026-09-04 |
| s326 | 不法入国者が少女を死亡させ、民主党が沈黙しているとする言説 | 確立 | 反タラリコ | 583 | 450 | 12,929 | 2026-07-15 |
| s109 | テキサス民主党の熱意不足で資金調達が低迷し、オバマ投入もタラリコ敗北を防げないとする言説 | 確立 | 反タラリコ | 147 | 142 | 127,373 | 2026-05-12 |
| s766 | KaceyのTalarico支持が聴衆の半数喪失を招くとする言説 | 拡散先行 | 反タラリコ | 49 | 48 | 140,703 | 2026-10-11 |
| s773 | MAGAインフルエンサーの醜聞工作がケン・パクストンの状況を悪化させたとする言説 | 拡散先行 | — | 46 | 37 | 79,714 | 2026-10-12 |
| s628 | テレビで穏健派を名乗るジェームズ・タラリコは偽装だとする主張 | フレーミング | 反タラリコ | 7,868 | 5,612 | 72,671 | 2026-09-17 |

| ID | ナラティブ | 確度 | 立場 | 支持 | 独立投稿者 | 推定到達 | アンカー初出 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| s523 | 不法移民による母子殺害と国外滞在を求める言説 | フレーミング | 反タラリコ | 1,935 | 1,673 | 2,092 | 2026-08-27 |
| s138 | ケン・パクストンを救済者とし、民主党員の国外追放を訴える言説 | フレーミング | 親パクストン | 1,810 | 1,333 | 7,091 | 2026-05-19 |
| s612 | Talaricoは犯罪者を守り、Paxtonは収監するとして勝利を求める言説 | フレーミング | 反タラリコ | 1,497 | 1,185 | 9,925 | 2026-09-15 |
| **パクストン宛の反応 (33本)** | | | | | | | |
| s150 | ケン・パクストンが便宜のため児童性犯罪者を優遇したとする言説 | 確立 | 反パクストン | 19,039 | 7,910 | 432,504 | 2026-05-21 |
| s168 | ケン・パクストン氏への投票がテキサスを良くするとする言説 | 確立 | 親パクストン | 15,100 | 7,845 | 123,818 | 2026-05-25 |
| s753 | タラリコに敗北すると恐れるパクストンが選挙の本題を避けるとする言説 | 確立 | 反パクストン | 9,410 | 5,450 | 118,708 | 2026-10-10 |
| s275 | 有罪判決を受けた小児性愛者に便宜的な取引を与えたとする言説 | 確立 | 反パクストン | 9,495 | 4,898 | 172,393 | 2026-06-23 |
| s120 | Paxtonの事務所が児童虐待事件で寛大な司法取引をしたとする言説 | 確立 | 反パクストン | 7,776 | 4,182 | 505,706 | 2026-05-15 |
| s804 | ケン・パクストンの政策が勤勉な米国人を傷つけるとする言説 | 確立 | 反パクストン | 4,781 | 2,881 | 5,562 | 2026-10-15 |
| s708 | ジェームズ・タラリコ氏への偽AI広告を批判し投票を呼びかける言説 | 確立 | 反パクストン | 3,643 | 2,486 | 60,501 | 2026-10-02 |
| s806 | ケン・パクストンの政策が勤勉な米国人を苦しめるとする言説 | 確立 | 反パクストン | 3,465 | 2,201 | 33,758 | 2026-10-15 |
| s474 | タラリコ当選でテキサス州が悪化するとし、パクストンへの投票を促す言説 | 確立 | 反タラリコ | 2,864 | 1,925 | 10,814 | 2026-08-20 |
| s493 | 共和党の30年統治とトランプ政権をテキサスの現状に結び付ける言説 | 確立 | 反パクストン | 2,209 | 1,607 | 27,575 | 2026-08-25 |
| s347 | 11月の選挙でテキサスの社会主義化を排除するとする言説 ※ | 確立 | 親パクストン | 1,082 | 784 | 140,728 | 2026-07-21 |
| s713 | テキサス州の生活費高騰と共和党の長期支配を結びつける言説 | 確立 | 反パクストン | 1,059 | 780 | 86,179 | 2026-10-02 |
| s617 | ケン・パクストン氏が友人に便宜を図りドラァグクイーンを問題視するとする言説 | 確立 | 反パクストン | 530 | 458 | 126,271 | 2026-09-16 |
| s21 | 化学物質を含む合成ウェアより天然素材を選ぶべきだとする言説 | 確立 | — | 284 | 269 | 203,332 | 2026-04-13 |

| ID | ナラティブ | 確度 | 立場 | 支持 | 独立投稿者 | 推定到達 | アンカー初出 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| s161 | トランプに逆らう共和党員は敗北するとし、RINOに警告の理解を求める言説 | 確立 | 親パクストン | 165 | 160 | 18,027 | 2026-05-24 |
| s144 | ケン・パクストン氏を救済者とし、発がん性の毒物排除を求める言説 | 確立 | 親パクストン | 134 | 125 | 177,679 | 2026-05-20 |
| s574 | 女性や外国人を優先する共和党に若い男性が投票を拒むとする言説 | 確立 | — | 111 | 105 | 504,873 | 2026-09-08 |
| s33 | 衣服のPFASが健康被害や生殖への影響を招くとし天然繊維を勧める言説 | 拡散先行 | — | 98 | 94 | 5,652 | 2026-04-15 |
| s154 | 訴訟でDiscordの問題ある初期設定と虚偽を止めたとする言説 | 拡散先行 | 親パクストン | 19 | 16 | 584,856 | 2026-05-22 |
| s57 | ケン・パクストンを支持し、対立候補やRINOを退けるべきだとする言説 | フレーミング | 親パクストン | 27,969 | 14,072 | 956,129 | 2026-04-24 |
| s561 | ケン・パクストンを汚職などで追及された政治的負債とする言説 | フレーミング | 反パクストン | 29,661 | 12,702 | 319,358 | 2026-09-04 |
| s462 | テキサス有権者はパクストンのような悪党を選ぶべきでないとする言説 ※ | フレーミング | 反パクストン | 21,662 | 10,733 | 26,512 | 2026-08-14 |
| s443 | トランプの壁完成が南テキサスを犯罪者やカルテルから守るとする言説 | フレーミング | 親パクストン | 17,166 | 9,048 | 978,032 | 2026-08-11 |
| s76 | テキサスを脅かす政治家に対抗し、パクストンを州の守り手とする言説 | フレーミング | 親パクストン | 9,223 | 5,453 | 186,671 | 2026-05-01 |
| s12 | 上院共和党の対応を批判し、ケン・パクストン氏の当選を変化の起点とする言説 | フレーミング | 親パクストン | 8,386 | 5,106 | 103,129 | 2026-04-07 |
| s688 | メディア批判を交え、パクストンの実績と対立候補を対比する選挙言説 | フレーミング | 親パクストン | 6,286 | 3,769 | 166,682 | 2026-09-29 |
| s176 | パクストンが小児性愛者を軽い処分で済ませ再犯を招くとする言説 | フレーミング | 反パクストン | 5,530 | 3,223 | 856,641 | 2026-05-26 |
| s706 | ジェームズ・タラリコ氏への偽AI広告を批判し同氏への投票を促す言説 | フレーミング | 反パクストン | 5,706 | 3,174 | 168,924 | 2026-10-02 |
| s139 | 汚職弾劾と不倫離婚の渦中でも支持を得たとする言説 | フレーミング | 親パクストン | 4,321 | 2,671 | 35,921 | 2026-05-19 |
| s635 | ケン・パクストンが党派や肩書きより国と選挙を重視するとする言説 | フレーミング | 親パクストン | 697 | 590 | 3,387 | 2026-09-18 |
| s396 | テキサス州のケン・パクストン氏による大麻規制を批判し、失職を求める言説 | フレーミング | 反パクストン | 354 | 211 | 43,755 | 2026-08-03 |
| s26 | 米国でルルレモン衣料のPFAS含有疑惑が調査対象とされる言説 | フレーミング | — | 151 | 146 | 583,731 | 2026-04-13 |

| ID | ナラティブ | 確度 | 立場 | 支持 | 独立投稿者 | 推定到達 | アンカー初出 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| s25 | レギンスのPFAS吸収と健康問題を結び付ける言説 | フレーミング | — | 121 | 113 | 5,051,952 | 2026-04-13 |
| **州民主党宛の反応 (2本)** | | | | | | | |
| s332 | 不法移民問題をめぐり、民主党が国境封鎖を妨げ共和党が救済するとする言説 ※ | 確立 | 反民主党 | 3,042 | 2,250 | 3,423 | 2026-07-17 |
| s545 | 富裕層が政治家を買収し、医療・食料支援の削減で利益を得るとする言説 | 確立 | 反共和党 | 161 | 118 | 26,827 | 2026-08-30 |
| **州共和党宛の反応 (1本)** | | | | | | | |
| s619 | Bo Frenchが人種差別的な攻撃を招いたとして謝罪を求める言説 | 確立 | 反共和党 | 175 | 163 | 275,556 | 2026-09-16 |

## Appendix C: 論点別の元投稿数と反応構成 (15論点 × 2候補、前期→後期)

本表の「前期」は決選投票までの期間 (2026年3月1日〜6月4日)、「後期」は本選期 (2026年6月1日〜9月30日) を指す。境界の6月1日〜4日は双方に含まれる。

論点の15分類は、投稿の主題を 経済・雇用 / 医療・ヘルスケア / 移民・国境 / 民主主義・統治 / 汚職・倫理 / 治安・公共安全 / 地域性・州アイデンティティ / 経歴・信頼性 / 選挙動員 / 対立候補攻撃 / 全国政党対立 / 教育 / 環境・エネルギー / 外交・安全保障・国防 / その他に割り当てたものである。住宅価格や生活費など暮らしの争点は主に「経済・雇用」に (州の固定資産税の文脈では「地域性・州アイデンティティ」に) 含まれる。

報道・世論調査から独立に抽出した主要争点との照合 (手法③・3.4節) では、この15分類は選挙戦の主要な対立軸を概ねカバーしていた。一方、中絶や宗教・価値観のような争点は独立した分類を持たず「その他」等に吸収されるため、より細かい補助分類の追加を今後の改善点とする。

表頭の T はタラリコ、P はパクストンを指す。「元投稿」とは反応が寄せられた元の候補者投稿のこと。論点は1つの投稿に複数付与されるため、論点別の合計は投稿総数を上回る。支持・批判はその論点の元投稿に付いた反応の、層化抽出の抽出率を補正した重み付き構成比で、「—」は分類標本のない期間を含む論点 (2026年3〜9月の集計)。

| 論点 | T 元投稿数 | T 支持 | T 批判 | P 元投稿数 | P 支持 | P 批判 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 対立候補攻撃 | 10 → 31 | 10% → 13% | 71% → 63% | 82 → 94 | 52% → 17% | 28% → 62% |
| 選挙動員 | 10 → 24 | 7% → 8% | 73% → 73% | 147 → 96 | 45% → 14% | 34% → 63% |
| 地域性・州アイデンティティ | 6 → 16 | 10% → 11% | 67% → 65% | 35 → 60 | 29% → 17% | 45% → 57% |
| その他 | 5 → 15 | 12% → 7% | 62% → 65% | 166 → 55 | 39% → 21% | 32% → 55% |
| 治安・公共安全 | 3 → 10 | 9% → 5% | 67% → 77% | 44 → 51 | 51% → 25% | 23% → 51% |
| 経済・雇用 | 14 → 19 | 8% → 6% | 74% → 76% | 3 → 40 | 48% → 15% | 20% → 62% |
| 汚職・倫理 | 8 → 33 | 10% → 10% | 70% → 69% | 27 → 19 | 57% → 12% | 20% → 69% |
| 民主主義・統治 | 5 → 17 | 12% → 11% | 66% → 65% | 44 → 21 | 60% → 19% | 19% → 60% |
| 経歴・信頼性 | 8 → 15 | 8% → 8% | 70% → 73% | 22 → 21 | 57% → 18% | 24% → 61% |
| 全国政党対立 | 3 → 1 | 4% → 4% | 72% → 80% | 46 → 35 | 49% → 13% | 32% → 63% |
| 医療・ヘルスケア | 3 → 6 | 17% → 4% | 67% → 80% | 7 → 27 | 48% → 26% | 31% → 50% |
| 移民・国境 | 2 → 12 | 19% → 4% | 63% → 79% | 17 → 8 | 63% → 23% | 15% → 55% |
| 環境・エネルギー | 0 → 2 | — | — | 4 → 14 | 35% → 20% | 20% → 56% |
| 教育 | 3 → 6 | 6% → 4% | 81% → 79% | 3 → 9 | 24% → 22% | 59% → 54% |
| 外交・安全保障・国防 | 5 → 2 | 11% → 6% | 73% → 76% | 4 → 6 | 58% → 13% | 19% → 61% |

本レポートの数値は、反応の感情分類 (2026年3月1日〜10月16日・候補者2人宛・約54.7万件。うち10月分約15.7万件は本分析で追加分類)、ナラティブ分析 (2026年4月1日〜10月16日・4アカウント・リポスト除く)、および Sakana Marlin による公開情報調査 (2026年10月18日〜26日に複数回実施) に基づく。